

◎故事成語がズバリわかる!

ちょっと智慧のわく書!

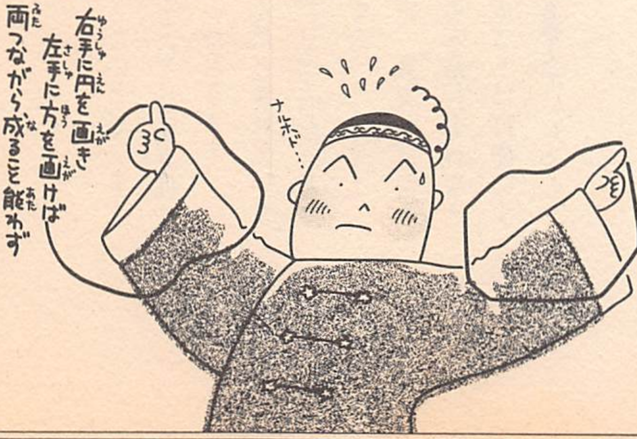


麻原彰晃 著

◉故事成語がズバリわかる！



もうもう知恵のわく書 上



麻原彰晃 著

はじめに

これから、故事成語のシリーズを書いていきたいと思います。まずは、韓非編。わたしは一般的には、韓非子という言葉を使っていますので、韓非子という言葉を使わせていただきます。

この韓非子は韓に生まれ、そして荀子に学んだとされています。しかし、韓からの使者として秦に赴き、そして、旧友にあった李斯の策謀によって、前二三三年にこの世を去っています。

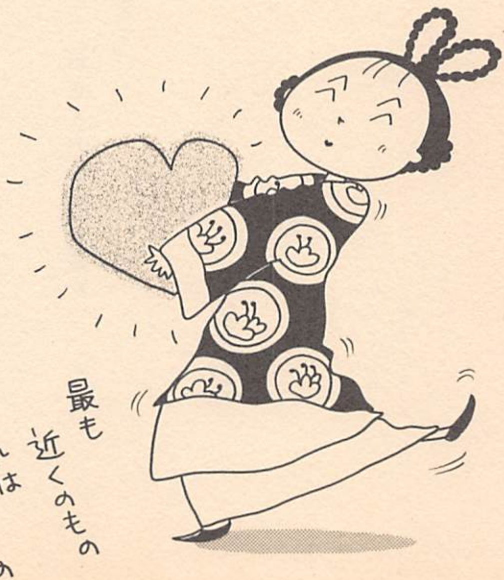
この韓非子の著作集は、わたしたちの人生に、真実とは何かをいろいろな形で説いてくれています。もちろん修行を行なうことにより、これらの韓非子の教えを超越することは可能ですが、皆さんは、人生の一部として真理の実践を考えていらっしゃ

るでしょうから、ここでは、皆さんに即役に立つような故事成語を引用したいと思います。
　この故事成語の研究によって、皆さんの人生が豊かで、そして賢いものとなることを祈ります。

麻原彰晃

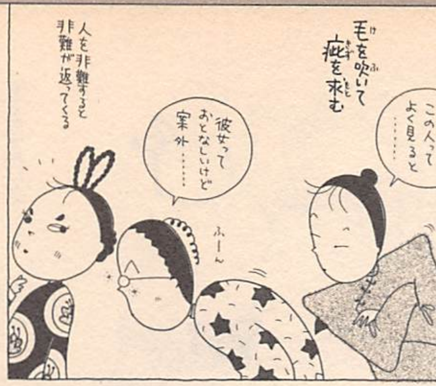
もうもう智慧のわく書 1.

☆故事成語がズバリわかる！☆



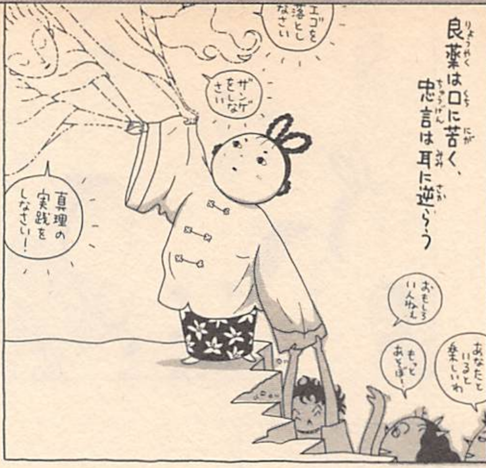
遠水(えんすい)は近火(きんか)を救(すく)わず

最も
近くのもの
それは
わたしたちの
心


毛を吹いて疵を求む
人を非難すると非難が返ってくる
この人ってよく見ると……
彼女っておとなしいけど案外……
ふーん


盂方なれば水も方なり
教祖の教えによってその教団の人たちも同じような形に変えられる
真理の教え


玉卮 当無し
どちらが好き?

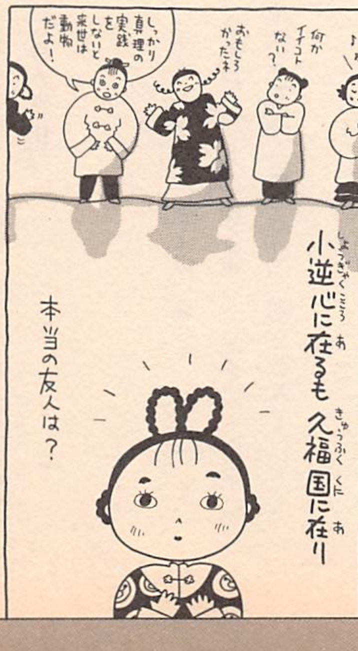


良薬は口に苦く、忠言は耳に逆らう
エゴを落としなさい
ザンゲをしなさい
真理の実践をしなさい!
おもしろい人ねえ
あなたといると楽しいわ
もっとあそぼ!



鱣は蛇に似、蚕は蠋に似る
ホントよ
やーねーオウムって
オウム真理教もときどきいいこと言ってる……
本当は最高のダイヤモンドなのに……
尊師
みははは オウム真理教おもしれえ
利益によって対象に対する認識が変わる


治強は法に生ず
ところで……
今の日本は本当に強い国?
SALT


何かイイコトない?
おもしろかったネ
しっかり真理の実践をしないと来世は動物だよ!
小逆心に在るも 久福国に在り
本当の友人は?

❖ 蟻堤を潰す

〔韓非子、喩老〕　千丈之堤、以螻蟻之穴潰、百尺之室、以突隙之烟焚。故曰、「白圭之行堤也、塞其穴、丈人之慎火也、塗其隙。是以白圭無水難、丈人無火患。」此皆慎易以避難、敬細以遠大者也。

【書き下し文】

千丈の堤は、螻蟻の穴を以て潰え、百尺の室は、突隙の烟を以て焚く。故に曰く、「白圭の堤に行くや、其の穴を塞ぎ、丈人の火を慎むや、其の隙を塗る。是を以て白圭に水難無く、丈人に火患無し」と。此れ皆易きを慎みて以て難を避け、細を敬みて以て大に遠ざかる者なり。

【訳】

長さ千丈もある長い堤防も、小さなおけらや蟻(あり)の穴によって崩れ、高さ百尺もある大きな家も、わずかな隙間から入った煙で焼けてしまう。だから、「白圭(はっけい)は堤防を巡っては、その小さな穴をすぐにふさぎ、老人は火の用心をしては、その壁の隙間にすぐに土を塗る。それだから、白圭が治めれば水害がなく、老人に任せれば火災がない」という。

これらはみな、やさしいうちに注意して事が難しくなるのを避け、小さいうちに用心して事が大きくなるのを遠ざける人々なのである。

【注】

・白圭——古代の治水家の名。

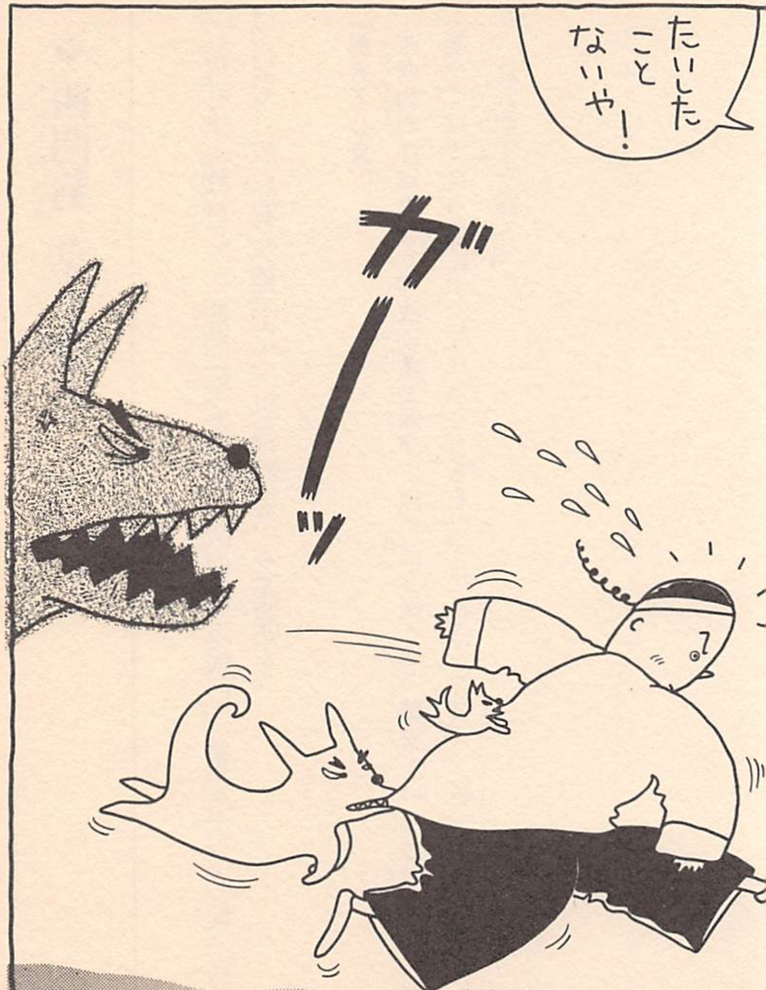




蟻堤を潰す

「蟻堤を潰す」。この「蟻堤を潰す」は、小事をかまけていると大事に至るというたとえです。この比喩は、例えば、堤防に対して、もし蟻の通るような穴があいていれば、そこから堤防はどんどん崩壊し、そして最後には水の大氾濫を招くとか、あるいは、土壁に少し穴があいていて、そこから煙が入るようであるならば、その家は火事になるとかいったような意味から、この成語が出ています。

ところで、わたしたちも、わたしたちの小さな欠点をおろそかにしていると、その欠点が取り返しもつかないようなことに出くわすことがよくあるはずです。したがって、小事、つまり、取るに足らないようなことについても、慎重に検討し、そして正しい生き方をしたいものです。


たいしたことないや！
ガーッ

❖ 西門豹 韋を佩ぶ

［韓非子、観行］　西門豹之性急。故佩韋以緩己。董安于之心緩。故佩弦以自急。故以有余補不足、以長続短、之謂明主。

【書き下し文】

西門豹の性は急なり。故に韋を佩びて以て己を緩くす。董安于の心は緩なり。故に弦を佩びて以て自ら急にす。故に余り有るを以て足らざるを補い、長きを以て短きに続ぐを、之れ明主と謂う。

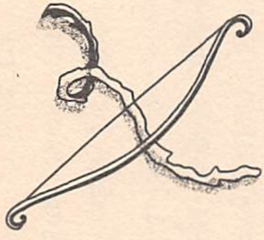
【訳】

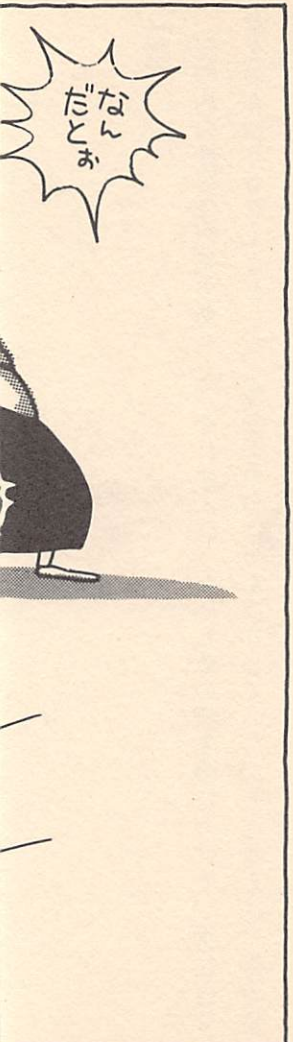
西門豹の性質は短気であった。それゆえに、なめし革の紐(ひも)を腰に下げて、常に自分自身をのんびりさせようとした。董安于の心はのんびりしていた。それゆえに、弓の弦を腰に下げて、常に自らを引き締めようとした。

つまり、余りあるものによって足りないところを補ったり、長いものによって短いところにつないだりする、これが明君というものである。

【注】

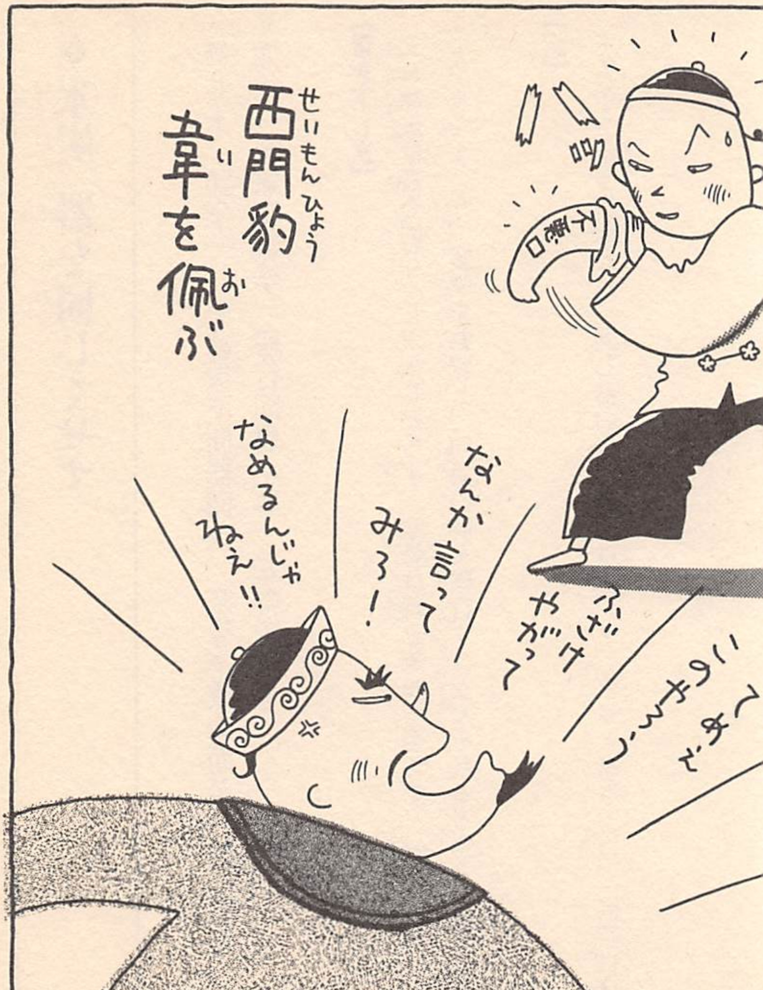
・西門豹――魏(ぎ)の文侯の良臣。
・董安于――趙簡子(ちょうかんし)の良臣。





「西門豹韋を佩ぶ」について、説明をしましょう。これは、西門豹という人がいて、この人は大変短気だったわけですが、その短気を起こさないために、なめし革の紐を、柔らかくのんびりしたものの印として、絶えず身につけていたことからの成語です。

ところで、わたしも修行の途上において、指の十本に——もちろん手の指ですが、不殺生・不偸盗・不邪淫・不妄語・不綺語・不悪口・不両舌・不慳貪・不瞋恚・不邪見という十戒をマジックで大きく書いて、それを絶えず見ながら生活した記憶があります。このように、自己の欠点を知り、そしてそれを絶えず気遣うことは、わたしたちの人生を大きく変え、そして大きな利益を与えるものです。皆さんも自己の欠点、その欠点に対する教えを何らかの形で気づかせるような生活様式をとってみたらいかがでしょうか。


西門豹（せいもんひょう） 韋（い）を佩（お）ぶ
不悪口
てめぇ
このやろっ
ふざけやがって
なんか言ってみろ!
なめるんじゃねえ!!

❖氷炭(ひょうたん)器(き)を同(おな)じくせず

［韓非子、顕学］　夫冰炭不同器而久、寒暑不兼時而至、雑反之学、不両立而治。今兼聴雑学、繆行同異之辞。安得無乱乎。

【書き下し文】
夫(そ)れ冰炭(ひょうたん)は器(き)を同じくして久しからず、寒暑は時を兼ねて至らず、雑反(ざっぱん)の学は、両立して治まらず。今、雑学を兼聴(けんてい)し、同異の辞を繆行(びゅうこう)す。安(いず)くんぞ乱るる無きを得んや。

【訳】
そもそも氷と炭火とは、同じ器の中で長くはもたず、寒さと暑さとは、同時には訪れ

ず、雑然として相反する学説は、両立して治まることはない。
それなのに今、(君主たちは) いろいろな学説を併せ聴き、同じだったり異なったりする言論をからめて行なおうとする。どうして乱れないことがあろうか。乱れざるを得ないのである。

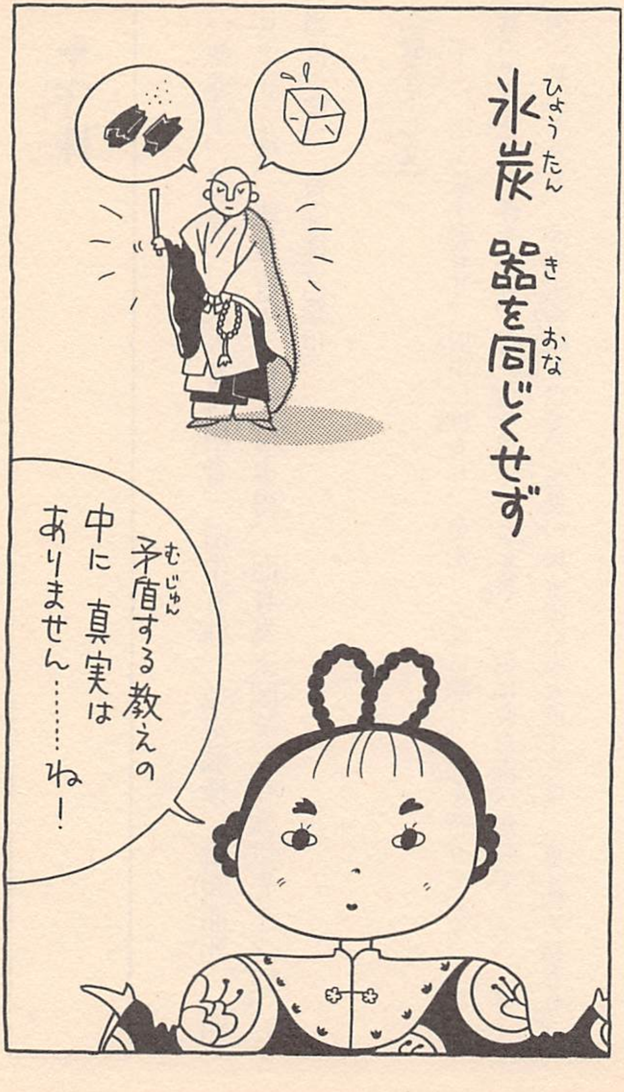


これは、氷と炭を同じ器に入れることはできないという意味のことわざです。これは、いろいろな矛盾する教え、それを一緒に学ぶことはできないという意味があります。

しかし、現代の日本では、多くの矛盾する宗教の教えが存在しています。この矛盾する宗教の教えは、同じ宗教体系でありながら、あるいは、同じ教祖の口から相矛盾する教えが平然と説かれているのが実情です。しかし、わたしたちは無智・迷妄なるがゆえに、自分自身に利益のある部分だけを食らおうとします。もともと矛盾している教えですから、その中に真実があるはずがありません。

例えば、日本に伝わってきた大乗仏教などは、もともと小乗仏教の上に乗っからなければならない教えなのに、大乗仏教だけがポンと日本に渡り、それゆえに仏教的教えというより、どちらかというと道徳的教えに傾倒しているかのように思われます。

真の宗教に巡り合うためには、そして、人生において迷いない人生を送るためにはどうしたらいいか。それは、この「氷(ひょう)」——氷と、「炭(たん)」——炭、これを同じ器に入れないことが大切なんです。しっかり肝に銘じましょう。


氷炭 器を同じくせず
矛盾する教えの
中に 真実は
ありません……ね！

❖守株（しゅしゅ）

［韓非子、五蠹］　宋人有耕田者。田中有株、兎走触株、折頸而死。因釈其耒而守株、冀復得兎。兎不可復得、而身為宋国笑。今欲以先王之政、治当世之民、皆守株之類也。

【書き下し文】

宋人（そうひと）に田を耕す者有り。田中（でんちゅう）に株（かぶ）有り、兎走りて株に触れ、頸（くび）を折りて死す。因（よ）りて其の耒（すき）を釈（す）てて株を守り、復た兎を得んことを冀（こいねが）う。兎は復た得べからずして、身は宋国の笑いと為る。今先王の政（まつりごと）を以て、当世の民を治めんと欲するは、皆守株（しゅしゅ）の類なり。

【訳】

宋の人に田を耕す者がいた。田んぼの中に切り株があって、ウサギが走ってきて切り株にぶつかり、首を折って死んだ。そこで、その者はすきを捨てて、切り株を見守り、もう一度ウサギを手に入れようとした。しかし、ウサギは二度と手に入れることができず、本人は宋国中の笑い者となった。

今、昔の聖王の政治によって、現在の人民を治めようとするのは、みんな〝切り株を見守る〟類いなのである。

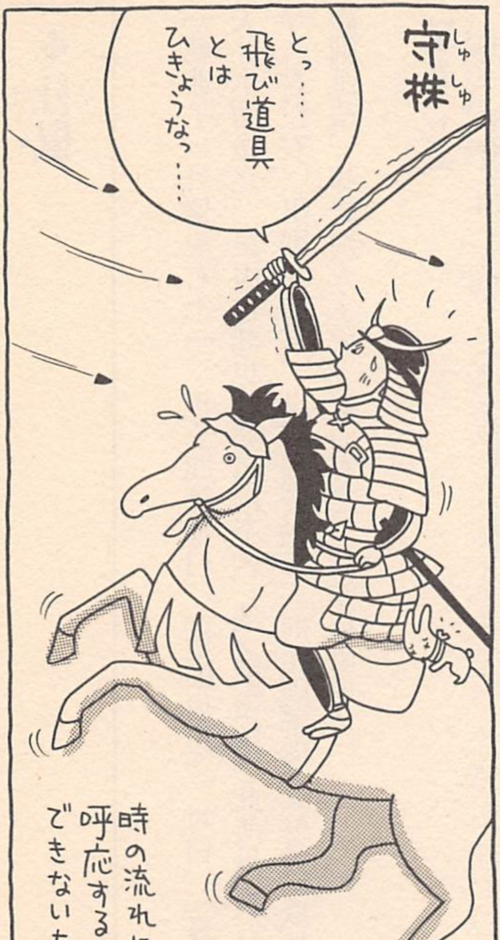


ここでは、有名な「守株」について検討したいと思います。「守株」とは、あの有名な「待ちぼうけ」の歌の内容にある、「株を守る」という意味です。

この故事成語の内容は、宋の国の農夫が野良仕事をしている最中、ウサギがやってきて、切り株につまずき、首の骨を折って死んだ。それ以来、農夫は野良仕事をやめ、再びウサギを得ようと切り株の番をした。それによって、宋の国の人の笑い者になったという内容です。これは、旧態依然の考え方、それにとらわれ、そして、時の流れに呼応することのできないたとえを表わしています。

ところで、わたしたちはこの「守株」のことわざを聞いたとき、ピンとくる日本の大戦を思い出します。それは、「長篠の合戦」。武田勝頼の軍は、旧態依然とした騎馬軍団、そして織田の軍勢は、最新鋭の武器、鉄砲隊を動員しての対決でした。もちろんこれはいうまでもなく、織田軍の大勝。これらのことからもわかるとおり、わたしたちは絶えず時の流れに目を向け、そして、その流れに即した最高の教えを実践する必要があると思われます。

もちろん、いかなる時の流れを通しても、最高の教えは何か？　それは、絶対の真理です。



❖社鼠

［韓非子、外儲説右上］　桓公問管仲曰、「治国何患。」対曰、「最苦社鼠。夫社木而塗之。鼠因自託也。燻之則木焚、灌之則塗陁。此所以苦於社鼠也。」今人君左右、出則為勢重、以収利於民、入則比周讒侮、蔽悪以欺於君。不誅則乱法、誅之則人主危。拠而宥之。此亦社鼠也。

【書き下し文】

桓公、管仲に問いて曰く、「国を治むるに何をか患うる」と。対えて曰く、「最も社鼠に苦しむ。夫の社は木をたてて之に塗る。鼠因りて自ら託するなり。之を燻せば則ち木焚け、之に灌がば則ち塗陁る。此れ社鼠に苦しむ所以なり」と。今人君の左右、出でて

は則ち勢いの重きを為し、以て利を民に収め、入りては則ち比周謾侮し、悪を蔽いて以て君を欺く。誅せざれば則ち法を乱り、之を誅せば則ち人主危うし。拠りて之を宥す。此れ亦社鼠なり。

【訳】

桓公が管仲に質問していうには、

「国を治めるのに悩むのは何かな」と。

（管仲が）答えていうには、

「最も苦しむのは、社鼠でございます。かの土地の神を祭る社は、木材をたてて、それに壁土を塗りますが、鼠はそこに巣くって身を託します。これをいぶせば木材は焼けますし、これに水を注げば壁の土は崩れます。これが社鼠に苦しむ理由であります」と。

今、君主の左右の近臣は、外に対しては権勢をかざして、人民から利益をしぼり取り、内においては徒党を組んで他人を侮りそしり、悪事を隠して君主を欺く。これを罰しな

いと法は乱れ、これを罰すれば君主が危なくなる。それで、これを大目に見てしまう。こうした近臣は、また社鼠に当たるのである。

【注】

・桓公——春秋時代の斉(せい)の君主。

・管仲——桓公に仕えた斉の宰相。

*

この「社鼠(しゃそ)」とは、もともと出典はもう少し古く、「城狐社鼠(じょうこしゃそ)」という故事成語から来ているものと思われます。

「城狐社鼠」とは、城の中の狐、そして社の中の鼠という意味です。もし城の中の狐を退治しようと思えば、当然城をけがすことになりますし、あるいは社の鼠を退治しようと思えば、当然その神様を傷つけることになります。ですから、これら二つはなかなか退治しづらいという意味からきています。



これをもう少し深く検討すると、城の中に住んでいる奸臣（かんしん）、つまり、よからぬ心を持った側近、これを除くことはなかなか難しい。そしてまた除こうとすれば、それだけ国家にとって大きな悪影響があるということのたとえです。

ところで、皆さんは今の日本の政治、これを見てどう考えられますか？　わたしには、狐がいっぱい、鼠がいっぱいのように思われますが……。

❖覆舟の下 伯夷無し

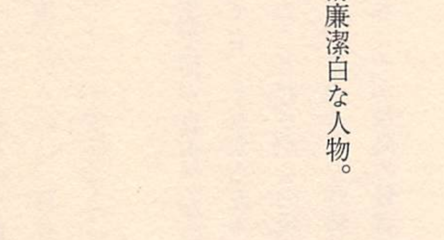
［韓非子、安危］ 奔車之上無仲尼、覆舟之下無伯夷。故号令者国之舟車也。安則智廉生、危則争鄙起。

【書き下し文】
奔車の上仲尼無く、覆舟の下伯夷無し。故に号令は国の舟車なり。安くして則ち智廉生じ、危くして則ち争鄙起る。

【訳】
暴走する車の上には、仲尼も乗っていず、転覆する舟のもとには、伯夷もいない。さ

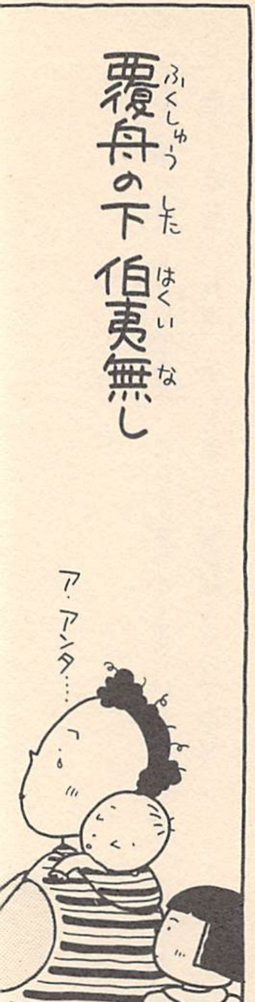
て、号令は国の舟であり車である。これが安らかで正しければ、智慧(ちえ)と清廉の心が生じるし、危うく乱れていれば、争いと卑しい心が起こるのである。

【注】
・仲尼――孔子の字(あざな)。
・伯夷――殷(いん)代の孤竹君(こちくくん)の子で、清廉潔白な人物。



「覆舟（ふくしゅう）」というのは、ひっくり返るような船という意味で、このような船には、伯夷は乗らないという意味です。この伯夷というのは、賢者を代表する者で、賢い人はひっくり返るような船には乗らない、転じて、不安定なところには賢者は存在しないという意味です。

しかし、現代を見渡すと、何が真実で何が真実でないか、全くわからない時勢です。そして、例えば大会社に勤めたとしても、それから五年後、十年後、安定しているかどうかはわからないと。果たして、このことわざがこの現代に通じるかどうか、これはわたしは大変疑問に思います。もちろん、このような時勢だからこそ出家し、そして、真実の未来を知り、解脱する——、これこそが最高の賢者の道であり、最高の聖者の道ではないのでしょうか。





しかし 現代は……
出家こそ賢者の道
会社がつぶれた…
あんなに元気だった夫が死んだ……
うっうっ
かあちゃん…

❖ 遠水は近火を救わず

［韓非子、説林上］　魯穆公使庶公子或宦於晋、或宦於荊。犁鉏曰、「仮人於越而救溺子、越人雖善游、子必不生矣。失火而取水於海、海水雖多、火必不滅矣。遠水不救近火也。今晋与荊雖強、而斉近。魯患其不救乎。」

【書き下し文】

魯の穆公、庶公子をして或いは晋に宦し、或いは荊に宦せしむ。犁鉏曰く、「人を越より仮りて溺子を救うに、越人善く游ぐと雖も、子は必ず生きざらん。火を失して水を海より取るに、海水多しと雖も、火は必ず滅えざらん。遠水は近火を救わざればなり。今、晋と荊とは強しと雖も、而も斉は近し。魯の患、其れ救われざらんか」と。

【訳】

魯の穆公は、庶公子を晋に仕官させたり、楚に仕官させたりした。ところが、犁鉏がいうには、

「遠い越の国から人を借りてきて、溺れている子供を救おうとするなら、越の人がどんなに泳ぎがうまくても、子供はとても助かりません。火事になって、遠くの海から水を取り寄せようとするなら、海水がどんなにたくさんあっても、火事はとても消えません。遠くの水は、近くの火事の役には立たないのです。

今、晋と楚とがどんなに強いといっても、(魯の敵である)斉は近くにあります。したがって、魯の心配は実に解消できないでしょうね」と。

【注】

・穆公——春秋時代の魯の君主。

・犁鉏——斉の人、魯に仕える。

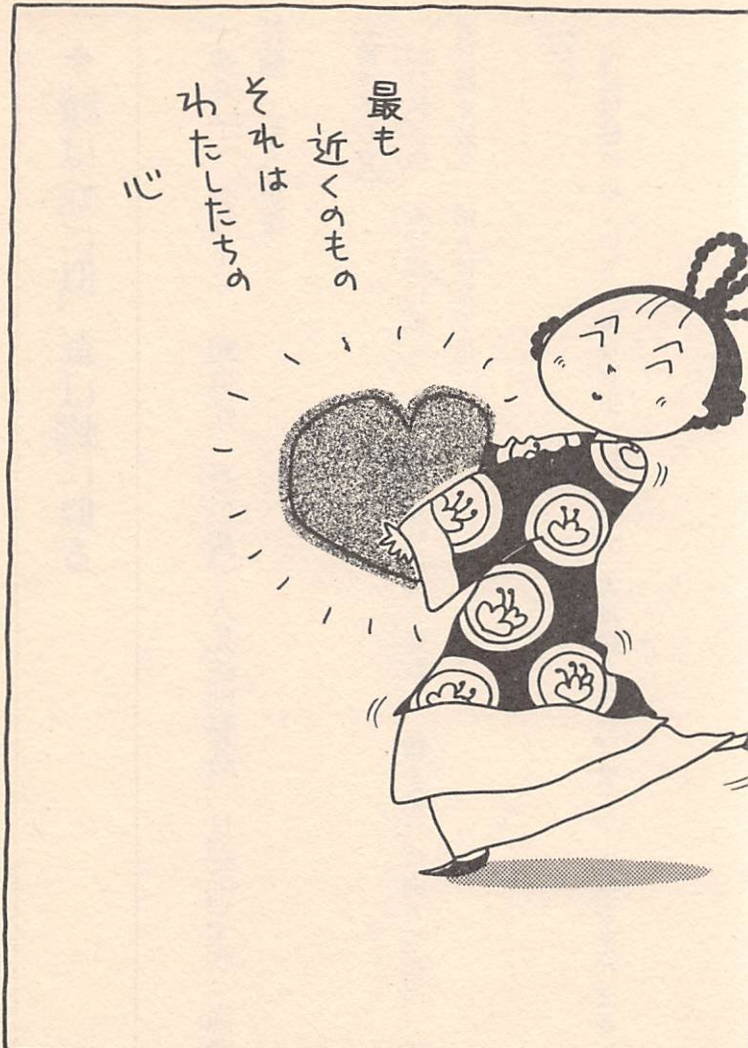


遠水は近火を救わず

「遠水は近火を救わず」。これは、遠い水は、近い火、つまり近くの火事を救うことはできない、消火の役に立たないという意味です。

ところで、わたしたちにとって最も身近なもの、それは何でしょうか。それは、近くの友人と答える人がいるかもしれません。しかし、わたしはそれに対して「ノー」と答えます。最も近くのもの、それはわたしたちの心にほかなりません。つまり、わたしたちが真理をしっかりと学び、真理を具足するならば、わたしたちは、どのような大火事に対面したとしても、それを即座に消火することができるはずです。また、それだけの教えが内在している、それが真理なのです。

皆さんも、いつ生じるかもわからない大火、これに対してしっかりと対応できるように、日々の教えの実践、頑張りましょう。


最も
近くのもの
それは
わたしたちの
心

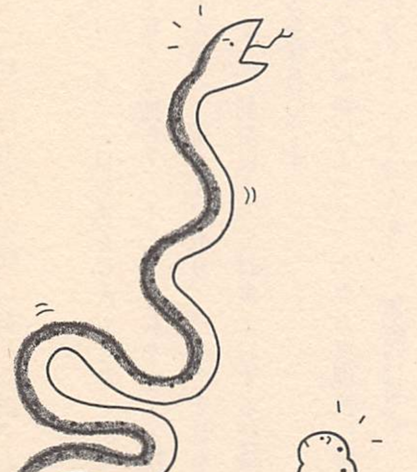
❖鱣(せん)は蛇(だ)に似(に)、蚕(さん)は蠋(しょく)に似(に)る

［韓非子、説林下］　鱣似蛇、蚕似蠋。人見蛇則驚駭、見蠋則毛起。漁者持鱣、婦人拾蚕。

【書き下し文】
鱣(せん)は蛇(だ)に似、蚕(さん)は蠋(しょく)に似る。人、蛇を見れば則ち驚駭(きょうがい)し、蠋を見れば則ち毛起(た)つ。漁者は鱣を持ち、婦人は蚕を拾う。

【訳】
海蛇は蛇に似ていて、蚕は青虫に似ている。人は蛇を見れば驚き、青虫を見れば身の

毛がよだつ。しかし、漁師は海蛇を手に持ち、婦人は蚕を拾い上げる。



この「鱣（せん）」とは海蛇（うみへび）を表わし、そして、「蛇（だ）」はもちろん蛇（へび）、「蚕（さん）」は蚕（かいこ）であり、「蠋（しょく）」は青虫のことです。

これは、例えばわたしたちは蛇を見たり、あるいは青虫を見たりすると恐怖や嫌悪の情が出てきます。しかし、漁師は海蛇を喜んで捕らえ、そしてそれを生活の糧にしますし、また、蚕を飼っている人は、もちろん喜んで蚕を手に取り、そしてそれを紡ぎ、絹糸とし、生活の糧にするでしょう。そこから、利益によって対象に対する認識の仕方が変わるというのが、この故事成語の真の意味合いです。

ところで皆さんは、マスコミのでたらめな情報によって、オウム真理教に対して、蛇だと考えたり、あるいは、蠋だと考えたりしていませんか? 実際は皆さんにとって、最高のダイヤモンドであることは疑いないのに……。



鱣（せん）は蛇（だ）に似（に）、蚕（さん）は蠋（しょく）に似（に）る


オウム真理教も ときどき いいこと言ってる……
本当は最高のダイヤモンドなのに……
尊師
みははは オウム真理教 おもしれえ
利益によって対象に対する認識が変わる

❖ 治強(ちきょう)は法(ほう)に生(しょう)ず

［韓非子、外儲説右下］ 治強生於法、弱乱生於阿。君明於此、則正賞罰而非不仁也。爵禄生於功、誅罰生於罪。臣明於此、則尽死力而非忠君也。君通於不仁、臣通於不忠、則可以王矣。

【書き下し文】

治強は法に生じ、弱乱は阿(あ)に生ず。君此に明らかなれば、則ち賞罰を正すも不仁に非(あら)ざるなり。爵禄(しゃくろく)は功に生じ、誅罰(ちゅうばつ)は罪に生ず。臣此に明らかなれば、則ち死力を尽くすも君に忠なるに非ざるなり。君不仁に通じ、臣不忠に通ぜば、則ち以て王たるべし。

【訳】

国が治まって強くなるのは、法によって生じるのであり、国が弱く乱れるのは、不正によって生じるのである。君主がこの道理に明らかであれば、賞罰を改めたとしても、不仁であることはない。官爵俸禄(ほうろく)は功績によって生じるのであり、刑罰は罪によって生じるのである。臣下がこの道理に明らかであれば、必死の努力をしたとしても、君主に忠誠を尽くすわけではない。

君主が不仁に精通し、臣下が不忠に精通すれば、これによってその君主は王になることができるのである。

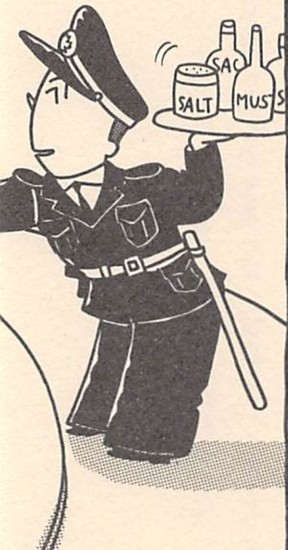


今回は、少し趣を変えて、政治についての故事成語、「治強は法に生ず」です。治強の「治」とは、治める。「強」は強い。つまり、強国をつくるためには、法律を厳守しなければならないという意味の故事成語です。

ところで、今の日本を見たとき、果たして法律どおりの国家運営がなされているかどうか。これは、わたし自体がオウムバッシングの経験を持ち、そして、その中で日本の国体は第二次世界大戦以前の国体に似てきているな、つまり、法治主義から、一部の権力者に都合のいい法律国家へと移行しているなという印象を強く受けました。

ということは、今の日本は、皆さんが考えているほど、ひょっとして強い国ではないのかもしれませんね。

治強は法に生ず




ところで……
今の日本は
本当に
強い国？
グサッ

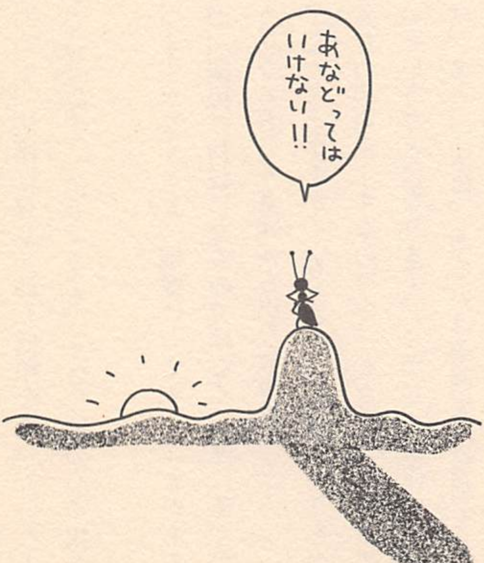
❖山（やま）に躓（つまず）かずして、垤（てつ）に躓（つまず）く

［韓非子、六反］ 先聖有言、曰、「不躓於山、而躓於垤。」山者大、故人順之。垤微小、故人易之也。

【書き下し文】
先聖（せんせい）言える有り、曰（いわ）く、「山に躓（つまず）かずして、垤（てつ）に躓く」と。山は大なり、故に人之を順（つつし）む。垤は微小なり、故に人之を易（あなど）るなり。

【訳】
昔の聖人はこのように言った。

「人は山にはつまずかないが、蟻塚につまずくものだ」と。
山は大きいから、人はこれを用心する。蟻塚はごく小さいから、人はこれをあなどるのである。



さすがに韓非子は法家を代表するだけあって、法律に対して最も信頼を置いていたようです。この故事成語、「山に躓かずして、垤に躓く」のたとえも、まさに彼の心の現われが出ているように思われます。

この垤とは蟻塚のこと。つまり、山につまずかなくとも、蟻塚につまずくことがあるんだ。——これは、刑罰を軽くすることが、国民の利益になるのではなく、逆に多くの人たちが、その法律を侮り、つまずくようになるという意味から出た故事成語です。

しかし、皆さんはこのことわざについてどう考えますか？　もともと、法律というものは、個々一人一人が、幸福な社会生活を営むためのルールなのです。したがって、法律がなければないほど、その国は素晴らしいということになります。しかし、現代のようにモラルの低下が見られる社会においては、多くの法律、あるいは条例等で規制をし、そして、がんじがらめにしなければ社会生活が運営できないような状況に至っています。

わたしたちは日々の修行を行なうことにより、モラルよりもっと高い意味での慈愛、哀れみ等の実践を行なうことにより、本当の意味での法律のない国にしたいものですね。


山に躓かずして、垤に躓く
でも法律って何のためにあるんだっけ……
パタパタ
♪
刑罰を軽くすると
かえって国民は、その法律を侮る

❖老馬の智

［韓非子、説林上］　管仲・隰朋、従於桓公而伐孤竹。春往冬反。迷惑失道。管仲曰、「老馬之智、可用也。」乃放老馬而随之、遂得道。

【書き下し文】

管仲・隰朋、桓公に従いて孤竹を伐つ。春往きて冬反る。迷惑して道を失う。管仲曰く、「老馬の智、用いるべきなり」と。乃ち老馬を放ちて之に随い、遂に道を得たり。

【訳】

管仲と隰朋は、桓公に従って孤竹の国を討伐した。行きは春だったが、帰りは冬とな

り、迷って道がわからなくなった。すると、管仲がいうには、
「老馬の智慧（ちえ）を用いるのがよいでしょう」と。
そこで老馬を放って、その後に従っていくと、やがて道を見つけた。

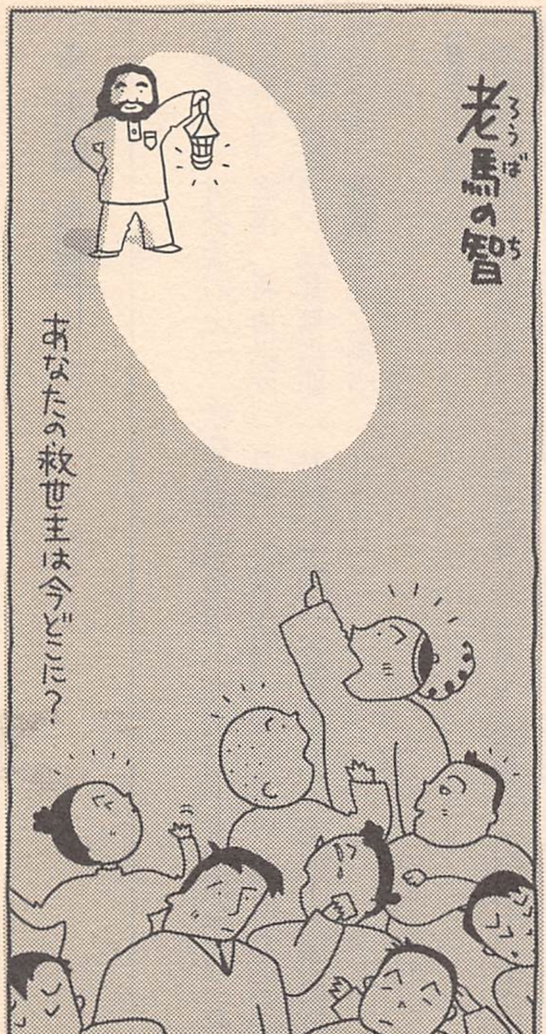
【注】
・管仲、桓公——26ページ参照。
・隰朋——春秋時代の斉（せい）の人。管仲を助けた。
・孤竹——国名。河北省盧竜（ろりょう）県の南にあった。



「老馬(ろうば)」とは老いた馬、つまり、経験を積んだ馬という意味です。この「老馬の智」というのは、経験を積んだ者、あるいは熟達した者の教えを受けることによって、何かを達成するという意味です。

ところで、真理の実践においては二つのタイプがあります。それは、そこに哲学的な教義が存在している、しかし、だれもその教えを体現していないという場合と、そこにその教えがあり、その教えをすべて経験し尽くしているという二つの場合です。そして、この前者は、例えば言葉の読み違い等により目的へ到達することがなかなか難しい。しかし、後者はその経験によって必ずや経典どおりの体験をし、そして阿羅漢(あらはん)、十力者(じゅうりきしゃ)への道を指し示され、それに基づいて、いかなる人でも、いつの生にかそこへ到達することができるという真理の実践です。

ところで、わたしたちは救世主を待望しています。この救世主は、この地上に伝わるあらゆる宗教の教えを体現し、その教えの内容を理解し、そして、伝えることのできる魂であってこそ、初めて救世主といえるのではないでしょうか。



果たして、あなたの救世主は、今どこに存在していますか？

❖玉卮(ぎょくし)当無(とうな)し

［韓非子、外儲説右上］　堂谿公見昭侯曰、「今有白玉之卮而無当、有瓦卮而有当。君渇、将何以飲。」君曰、「以瓦卮。」堂谿公曰、「白玉之卮美、而君不以飲者、以其無当耶。」君曰、「然。」堂谿公曰、「為人主、而漏泄其群臣之語、譬猶玉卮之無当。」

【書き下し文】

堂谿公(どうけいこう)、昭侯(しょうこう)に見(まみ)えて曰(いわ)く、「今白玉の卮(し)有りて当(そこ)無く、瓦卮(がし)有りて当有り。君渇せば、将(まさ)に何(いず)れを以て飲まんとす」と。君曰く、「瓦卮を以てせん」と。堂谿公曰く、「白玉の卮美なるに、而(しか)も君以て飲まざるは、其の当(そこ)無きを以てか」と。君曰く、「然り」と。堂

谿公曰く、「人主と為(な)りて、其の群臣の語を漏泄(ろうせつ)するは、譬(たと)えば猶(な)お玉巵(ぎょくし)の当無きがごとし」と。

【訳】

堂谿公が、韓の昭侯にお目にかかっていうには、

「今、白玉の杯(さかずき)があって、それには底がなく、素焼きの杯があって、それには底があります。もしのどが渇いたならば、あなたはどちらの杯で飲もうとなさいますか」と。

君主がいうには、

「素焼きの杯でするだろう」と。

堂谿公がいうには、

「白玉の杯は美しいのに、それであなたがお飲みにならないのは、それに底がないからでしょうか」と。

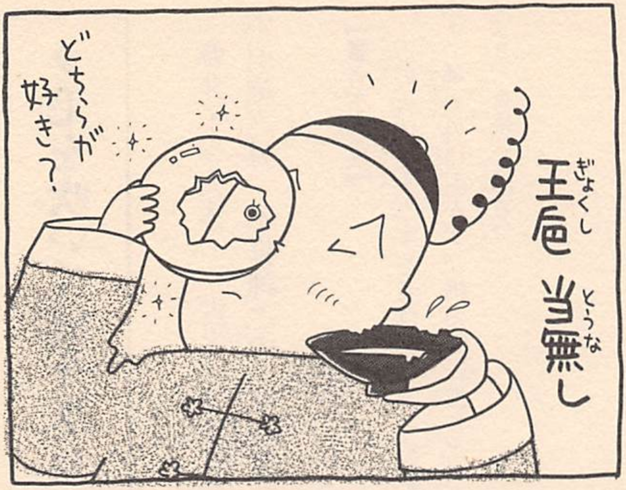
君主がいうには、

「そのとおりだ」と。
堂谿公がいうには、
「君主たる者が、その臣下たちの進言を人に漏らすのは、たとえるならば、ちょうど玉杯に底がないようなものでございます」と。

【注】
・堂谿公——堂谿という地方の代官であった人。
・昭侯——戦国時代の韓の君主。韓非子のしばしば推称した君主。

＊

「玉卮(ぎょくし)当無(とうな)し」とは、玉の杯に底がない、つまり、いくら貴重な物であったとしても役に立たないという意味です。現代的にわかりやすくいうならば、ここに金でできた杯があったとして、その杯に底がない杯と、それから普通の陶器の杯と、実際お酒を飲むとき、どちらの方が役に立つだろうかという検討をした場合、当然わたしたちは、金杯



を使わず、陶器の杯を使うはずです。これと同じように、いくら貴重な物であったとしても、役に立たない場合があるというたとえなのです。

もともとこのたとえは、王に対して、臣下がいろいろと提言をしたとき、その提言をいろんな人に漏らすということの戒めに説かれた教えです。わたしたちは、言葉において妄語・綺語・悪口・両舌を捨断し、そして正語の実践をなし、必要のないことをしゃべらないという実践をするならば大きな利益があります。

あなたは、底なしの黄金の杯が好きですか？

それとも、素焼きの陶器の杯で一杯飲みますか？

❖毛を吹いて疵を求む

［韓非子、大体］　古之全大体者、……不吹毛而求小疵、不洗垢而察難知。不引縄之外、不推縄之内。不急法之外、不緩法之内。守成理、因自然。

【書き下し文】
古の大体を全うする者は、……毛を吹いて小疵を求めず、垢を洗って知り難きを察せず。縄の外に引かず、縄の内に推さず。法の外に急にせず、法の内に緩くせず。成理を守り、自然に因る。

【訳】

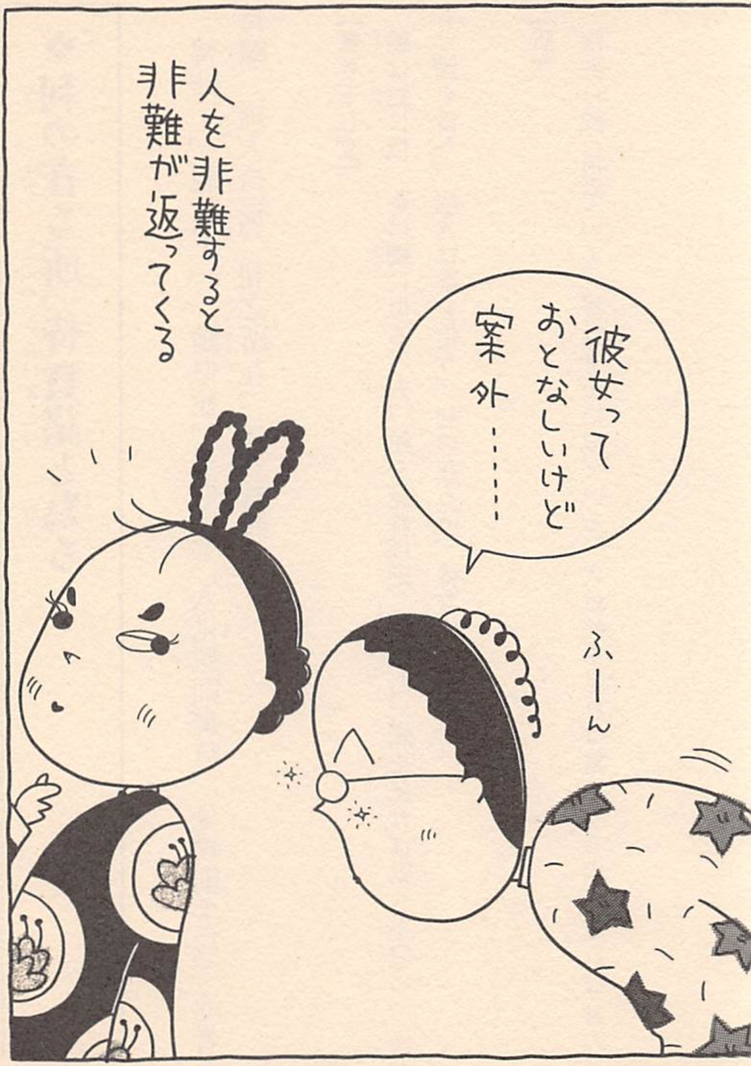
政治の要領を完全に体得していた昔の君主は、……毛を吹いて、小さな傷を探し出すようなことはせず、垢を洗い落として、わかりにくかったものを調べるようなことはしない。そしてまた、事を裁くのに基準以上に引き出したりせず、基準以下に押し入れたりせず、法律より上回って厳しくしたりせず、法律より下回って緩くしたりすることがなく、定まった道理を守り、自然に従うのである。



今回は、「毛を吹いて疵を求む」のたとえです。このたとえは、毛を吹いて、そして毛の下に隠れている傷口を探す。これから転じて、人の欠点を一生懸命探し、そしてそれを非難すると。そして、そこからもう一歩転じて、人の欠点を探し、非難し、逆にそれによって自分が非難されるという派生のある故事成語です。

ところで、この派生はカルマの法則に見合っていると思いませんか? つまり、人を非難したら非難が返ってくる。とはいえ、もし心の通った友人であるならば、正しくない身・口・意の行為に対しては、しっかりと、非難ではなく忠告をしたいものです。




人を非難すると
非難が返ってくる
彼女って
おとなしいけど
案外……
ふーん

❖利の在る所、皆賁諸と為る

［韓非子、説林下］鱣似蛇、蚕似蠋。人見蛇則驚駭、見蠋則毛起。漁者持鱣、婦人拾蚕。利之所在、皆為賁諸。

【書き下し文】

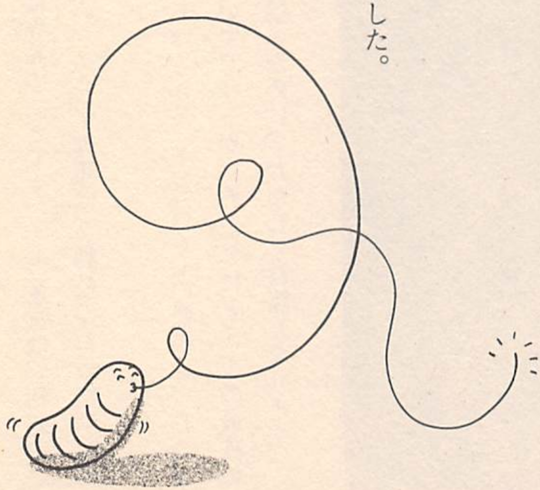
鱣は蛇に似、蚕は蠋に似る。人、蛇を見れば則ち驚駭し、蠋を見れば則ち毛起つ。漁者は鱣を持ち、婦人は蚕を拾う。利の在る所、皆賁諸と為る。

【訳】

海蛇は蛇に似ていて、蚕は青虫に似ている。人は蛇を見れば驚き、青虫を見れば身の

毛がよだつ。しかし、漁師は海蛇を手に持ち、婦人は蚕を拾い上げる。このように、利益のあるところでは、みんな孟賁（もうほん）や専諸（せんしょ）のような勇者となるのである。

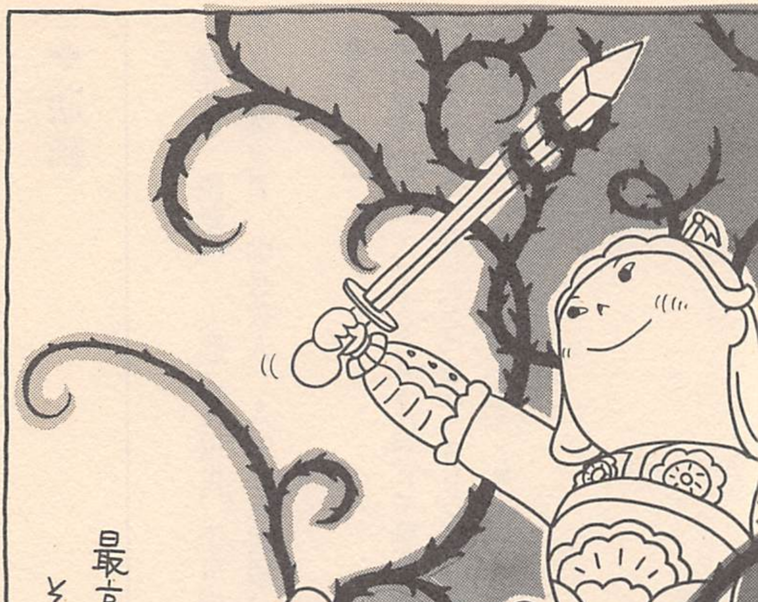
【注】
・孟賁——戦国時代の大力の勇士の名。
・専諸——春秋時代の呉の刺客。呉王僚（りょう）を暗殺した。



この「賁」とは孟賁のことであり、「諸」とは専諸のことです。この孟賁は、利益がそこに存在した場合、戦闘において大変勇敢に闘い、そして専諸は、利益のために刺客を演じました。

ところで、本当のわたしたちの利益とは何でしょうか？ それは、心の豊かさ、心の平安、そして来世幸福に生まれ変わることではないでしょうか。わたしにとっての最高の利益、それは真理の実践です。そして、その利益のために、わたしも賁諸となります。




最高の利益
それは 真理の実践！

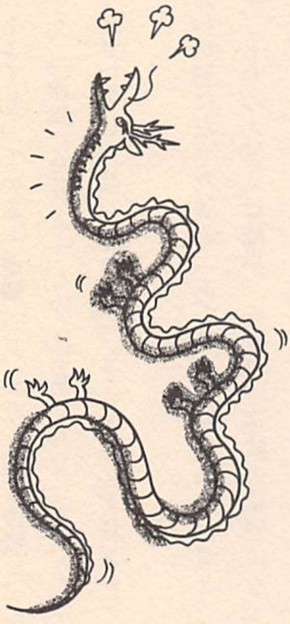
❖逆鱗（げきりん）

【韓非子、説難】　夫龍之為虫也、柔可狎而騎也。然其喉下有逆鱗径尺。若人有嬰之者、則必殺人。人主亦有逆鱗。説者能無嬰人主之逆鱗、則幾矣。

【書き下し文】
夫の龍の虫たるや、柔なるときは狎れて騎るべきなり。然れども其の喉下に逆鱗の径尺なるもの有り。若し人之に嬰るる者有らば、則ち必ず人を殺す。人主も亦逆鱗有り。説く者、能く人主の逆鱗に嬰るること無くんば、則ち幾し。

【訳】

かの龍という動物は、飼い慣らせば乗ることもできる。しかし、そののどの下には、直径一尺ほどの逆さの鱗（うろこ）があり、もしこれに触れる人がいれば、必ず殺される。同じように、君主にも逆鱗というものがある。遊説家が、注意して君主の逆鱗に触れることをしなければ、成功が期待できるのである。



逆鱗（げきりん）



今回は、皆さんもよく知っている「逆鱗（げきりん）」。つまり、逆さの鱗（うろこ）について検討をしましょう。この逆鱗はよく、「逆鱗に触れる」という言葉でおなじみになっています。もともとは、龍の喉にある逆さについた鱗に触れると、その魂は必ず殺されてしまうところから来ています。

ところで、逆鱗の状態になった魂と、あるいは逆鱗に触れた魂と、どちらの方が損をするのでしょうか。もちろん答えは簡単。それは、逆鱗の状態になった方が損をするに決まっています。なぜならば、そのとき心は怒りに支配され、対象を正確に認識することができないからです。

あなたは、逆鱗の状態になるだけではなく、怒りそのものを止滅しましょう。


わたしを怒らせたね!!!
どちらが損?

❖ 小逆心に在るも、久福国に在り

［韓非子、安危］　聞、古扁鵲之治甚病也、以刀刺骨、聖人之救危国也、以忠払耳。刺骨故小痛在体、而長利在身。払耳故小逆在心、而久福在国。故甚病之人、利在忍痛。猛毅之君、以福払耳。

【書き下し文】
聞く、古、扁鵲の甚だしき病を治むるや、刀を以て骨を刺し、聖人の危国を救うや、忠を以て耳に払ると。骨を刺す故に小痛体に在るも、長利身に在り。耳に払る故に小逆心に在るも、久福国に在り。故に甚病の人は、利痛みを忍ぶに在り。猛毅の君は、福を以て耳に払る。

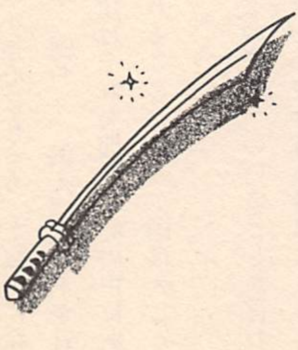
【訳】

聞くところによると、その昔、名医である扁鵲が難病を治すときは、刀で骨を刺したというし、聖人が国の危急を救うときは、忠言で君主の耳に逆らったという。骨を刺すのだから、体に少しの痛みはあるが、その身には長いこと利益がある。耳に逆らうのだから、君主の心に少しの抵抗はあるが、国には永久の幸福がある。

したがって、難病の人にとっては、痛みをこらえるのが利益であり、気の強い君主は、国の幸福を思って耳に逆らう忠言を聴くのである。

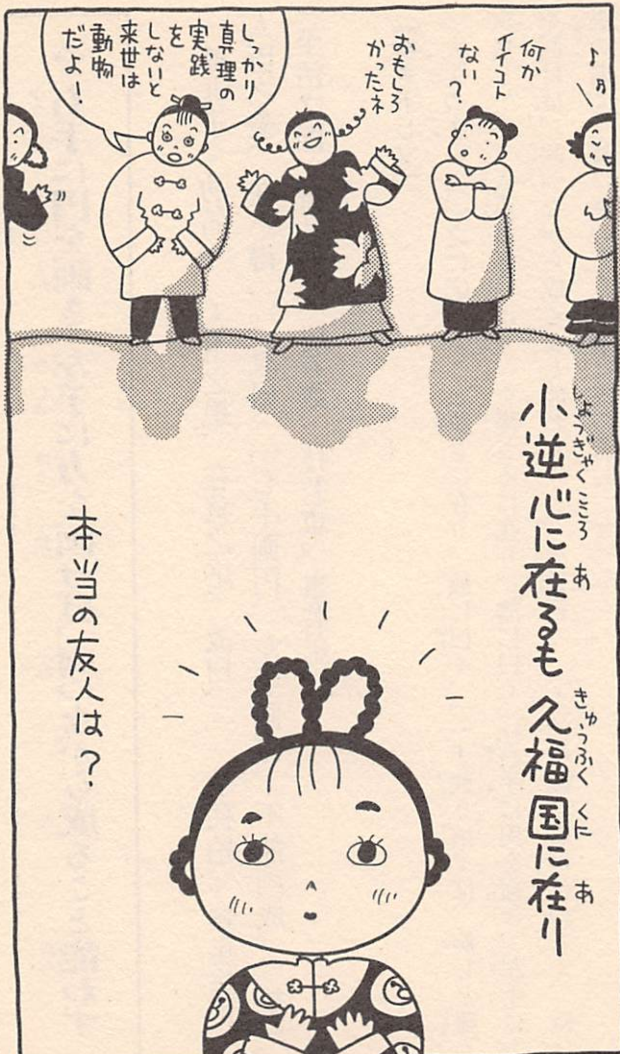
【注】

・扁鵲——黄帝に仕えた名医の名。



ここでは、少し長い故事成語について検討しましょう。「小逆心に在るも、久福国に在り」。これは小逆、つまり、小さな逆らい。これは耳に小さく逆らう、例えば、臣下が君主に対して諫言、つまり戒めの言葉を説いたとき、当然君主はそれを聞き、心の中にあまりいい気持ちは持たないでしょうが、その諫言を受け入れることによって国は久しく安泰であるというたとえです。

わたしたちは、友人を選ぶとき、わたしたちの耳に従う、つまり、いいことしか言わない友人を好む傾向があります。しかし、それでは決して正しい生き方を達成することはできません。なぜならば、この人間の世界、つまり欲の六つの世界の下から第四位の世界は、煩悩多き世界。つまり、カルマがいい世界とは決していえないからです。この状態のとき、例えば皆さんが諫言、つまり、戒めの言葉を素直に聞いたならば、国が久しいどころではなく、今生だけではなく、来世も大きな利益を得ることとなるでしょう。


何か イイコト ない？
おもしろかったネ
しっかり真理の実践をしないと来世は動物だよ！
小逆心に在るも 久福国に在り
本当の友人は？

❖右手に円を画き、左手に方を画けば、両つながら成ること能わず

［韓非子、功名］　人主之患、在莫之応。故曰、「一手独拍、雖疾無声。」人臣之憂、在不得一。故曰、「右手画円、左手画方、不能両成。」故曰、「至治之国、君若桴、臣若鼓、技若車、事若馬。」

【書き下し文】

人主の患いは、之に応ずること莫きに在り。故に曰く、「一手独り拍てば、疾しと雖も声無し」と。人臣の憂いは、一を得ざるに在り。故に曰く、「右手に円を画き、左手に方を画けば、両つながら成ること能わず」と。故に曰く、「至治の国、君は桴の若く、臣は鼓の若く、技は車の若く、事は馬の若し」と。

【訳】

君主の悩みは、臣下が自分に応じてくれないことである。だから、「片手だけで拍手をすれば、どんなに激しく打っても音は出ない」という。また、臣下の憂いは、一つのことに専念できないことである。だから、「右手で円を描き、左手で正方形を描こうとすれば、両方ともできあがらない」という。

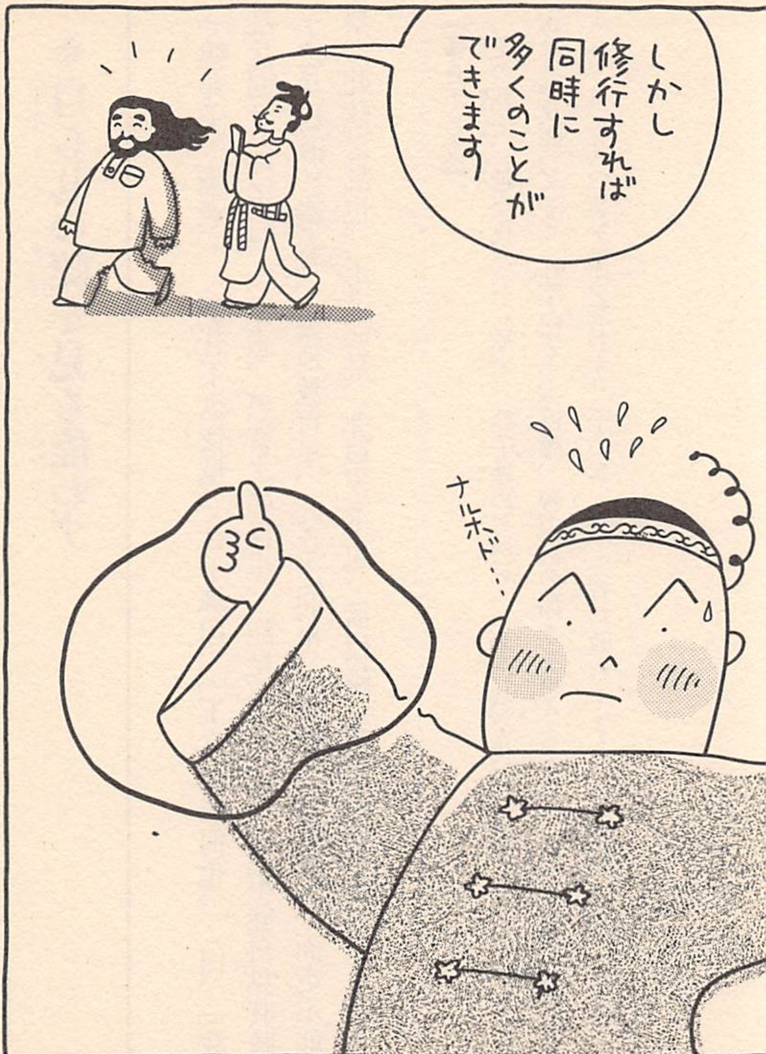
したがって、「最もよく治まった国では、君主は太鼓のばちのようであり、臣下は太鼓のようであり、また技能は車のようであり、仕事は馬のようである」というのである。



「右手に円を画き、左手に方を画けば、両つながら成ること能わず」。これは、右手で円を描き、左手で四角形を描くならば、その両方はきちんとできないところから転じて、同時に二つのことを達成することはできないのたとえです。

しかし、今から約千五百年ほど前に修行した聖徳太子は、同時に七つのことを達成したといわれています。かく言うわたしも、修行によって多くの人の言葉を瞬間に理解する能力を得ています。また、同時にいくつかの仕事を並列してこなす能力も、修行によって得ました。つまり、この故事成語は、凡夫のなすべき行であることを認識しなければなりません。しかし、もちろん修行によって達成する以前においては、一つのことを確実に達成していく訓練をしましょう。




しかし
修行すれば
同時に
多くのことが
できます
ナルホド・・・

❖自ら其の睫を見る能わず

［韓非子、喩老］ 楚荘王欲伐越。杜子諫曰、「王之伐越何也。」曰、「政乱兵弱。」杜子曰、「臣愚、患智之如目也。能見百歩之外、而不能自見其睫。王之兵自敗於秦・晋、喪地数百里、此兵之弱也。荘蹻為盗於境内、而吏不能禁、此政之乱也。王之弱乱、非越之下也。欲伐越、此智之如目也。」王乃止。

【書き下し文】

楚の荘王、越を伐たんと欲す。杜子諫めて曰く、「王の越を伐つは何ぞや」と。曰く、「政乱れ兵弱し」と。杜子曰く、「臣愚、智の目の如きを患うるなり。能く百歩の外を見るも、自ら其の睫を見る能わず。王の兵、秦・晋に敗れてより、地を喪うこと数百里、

此れ兵の弱きなり。荘蹻、盗を境内に為し、而も吏禁ずること能わず、此れ政の乱るるなり。王の弱乱は、越の下に非ざるなり。越を伐たんと欲す、此れ智の目の如きなり」と。王乃ち止む。

【訳】

楚の荘王が、越を討伐しようとした。そこで、杜子が諫めていうには、
「王が越を討伐なさろうとするのは、なぜでございますか」と。
王は答えた。
「政治が乱れて兵が弱いからだ」と。
そこで、杜子がいうには、
「わたくしめは、人の智慧が目と似ているのを心配するのでございます。目は百歩も先を見ることができますが、自ら自分のまつげを見ることはできません。王の兵は秦と晋の軍に敗れて、数百里四方の地を失ったのですから、これは楚の兵が弱いことになります。

また、荘蹻が国内で盗賊を働いていても、役人は取り押さえることができないのですから、これは政治が乱れていることになります。楚が弱く乱れているのは、越に劣るものではありません。ここで、越を討伐しようとお望みになるのは、人の智慧が目と似ていると申すものでございます」と。

王はそこで、越を討伐するのを中止した。

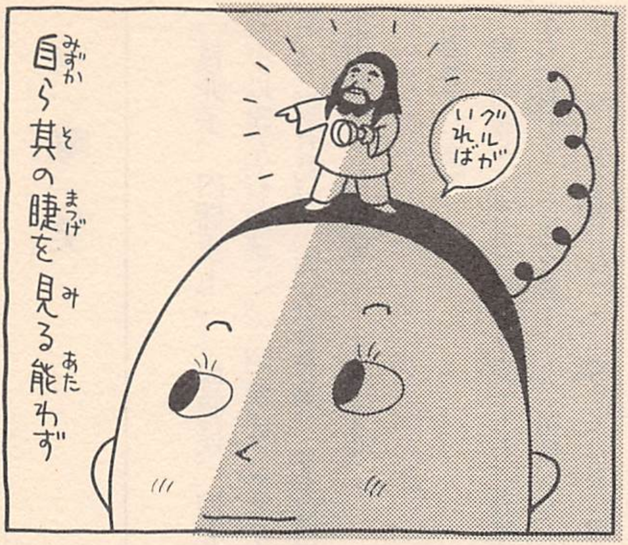
【注】

・荘王――春秋時代の楚の王。

・荘蹻――楚の威王の時代の大盗。

＊

この故事成語は、遠くのものは見ることができても、自分自身のまつげを見ることができない、転じて、遠くの対象に対しては、正しい観察をすることができても、自分自身についての観察は正しく行なうことができないのたとえです。



ところで、わたしたちは他人の欠点についてはよく目につきますが、自分自身の行動・心の働き・言葉については、なかなかチェックしづらいものです。ここで必要になってくるのが、グル、日本の言葉でいうならば、霊的な師匠ということになるでしょう。この霊的な師匠の言葉により、自分自身の行動、言葉の働き、そして心の働きをしっかりと統御し、日々の努力を行なうならば、必ずや目的地、つまり悟り・解脱へと到達するものです。

皆さんにとってのグル、それは、だれですか？

❖ 一嚬一笑(いっぴんいっしょう)

［韓非子、内儲説上］　韓昭侯、使人蔵弊袴。侍者曰、「君亦不仁矣。弊袴不以賜左右而蔵之。」昭侯曰、「非子之所知也。吾聞、『明主之愛一嚬一笑。』嚬有為嚬、而笑有為笑。今夫袴豈特嚬笑哉。袴之与嚬笑遠矣。吾必待有功者。故収蔵之、未有予也。」

【書き下し文】

韓の昭侯、人をして弊袴(へいこ)を蔵(ぞう)せしむ。侍者曰(いわ)く、「君も亦(また)不仁なるかな。弊袴すら以て左右に賜(たま)わずして之を蔵す」と。昭侯曰く、「子(し)の知る所に非ざるなり。吾聞く、『明主は之一嚬一笑(いっぴんいっしょう)を愛(お)しむ』と。嚬(ひん)するは為(ため)に嚬する有りて、笑うは為に笑う有り。今夫(そ)れ

袴は豈に特に嚬笑のみならんや。袴の嚬笑に与けるや遠し。吾必ず功有る者を待たん。故に之を収蔵して、未だ予うること有らざるなり」と。

【訳】

韓の昭侯が自分の破れた袴を、人に命じてしまわせた。侍者がいうには、「君子もずいぶん不仁なことをなさいますなあ。破れた袴さえ、左右の者に下賜せずにしまわれますから」と。

そこで、昭侯がいうには、「お前にはわからないことだ。わたしは聞いておるのだ。『明主はちょっと顔をしかめ、ちょっと笑うことをも惜しむものだ』と。顔をしかめるには、顔をしかめる理由があるし、笑うには笑う理由がある。いったい袴は、どうしてただ顔をしかめたり笑ったりするのと同じことがあろうか。袴とそれとでは大違いである。わたしは、必ず功績ある者を待って与えなければならない。だから、

これを収蔵しておいて、まだだれにも与えないのである」と。

*

ここでは、「一嚬一笑（いっぴんいっしょう）」という成語について皆さんと一緒に検討したいと思います。この「嚬（ひん）」とは、顔をしかめること。そして当然、「笑（しょう）」は笑うことです。これは、小さな表情の変化、つまり、顔をしかめたり笑ったりすることでも、周りの状態を考慮しながら行なわれなければならないという意味合いです。

ところで、現代の学校生活は殺伐としています。当然、暴力的な行為をストレスによって好む悪友もたくさんいるはずです。もしあなた方が、この「一嚬一笑」を心がけるならば、「ガンをつけた」といって殴られることもないでしょう。そして、自分自身の表情に気を遣うだけではなく、言葉の働き、心にも気を遣いましょう。



一嚬一笑（いっぴんいっしょう）


なにガンつけてんだ てめー
これからは気をつけよう……
表情……！
コトバ……！
心……！
この顔をやめよう…

❖一手独り拍てば、疾しと雖も声無し

［韓非子、功名］ 人主之患、在莫之応。故曰、「一手独拍、雖疾無声。」人臣之憂、在不得一。故曰、「右手画円、左手画方、不能両成。」

【書き下し文】

人主の患いは、之に応ずること莫きに在り。故に曰く、「一手独り拍てば、疾しと雖も声無し」と。人臣の憂いは、一を得ざるに在り。故に曰く、「右手に円を画き、左手に方を画けば、両つながら成ること能わず」と。

一手独り拍てば、疾しと雖も声無し

【訳】

君主の悩みは、臣下が自分に応じてくれないことである。だから、「片手だけで拍手をすれば、どんなに激しく打っても音は出ない」という。また、臣下の憂いは、一つのことに専念できないことである。だから、「右手で円を描き、左手で正方形を描こうとすれば、両方ともできあがらない」という。



ここでは、ちょっと長い成語を、皆さんと一緒に研究してみたいと思います。「一手独り拍(う)てば、疾(と)しと雖(いえど)も声無し」、これは、片手でいくら早く拍手をしようとしても、当然片手ですから音が出ないという意味です。

ところで、これは具体的にはどういうことかというと、例えば、先生と生徒の呼吸が合って、初めて生徒は成長するわけですし、あるいは、王と臣下、王と国民の息が合って、初めて大きな効果を得ることができるというたとえです。もちろん、これは宗教上、大変大きな意味合いを持つことわざだといわざるを得ません。いくら師匠が頑張って弟子を引き上げようとしても、弟子が努力しなければ結果が得られませんし、あるいは、弟子がいくら求めても、師匠にその資質がなければ結果が得られないというのも、この成語の意味を発展させた形で理解することができるはずです。

皆さんも素晴らしい師匠を得るように努力しましょう。


一手独り拍てば、疾しと雖も声無し
さぁ気合いを入れてっ！
師匠と弟子の息が合って初めて結果が得られる
はいっ

❖良薬は口に苦く、忠言は耳に逆らう

「韓非子、外儲説左上」　夫良薬苦於口。而智者勧而飲之。知其入而已己疾也。忠言払於耳。而明主聴之。知其可以致功也。

【書き下し文】

夫れ良薬は口に苦し。而れども智者は勧めて之を飲む。其の入りて己の疾を已すを知ればなり。忠言は耳に払らう。而れども明主は之を聴く。其の以て功を致すべきを知ればなり。

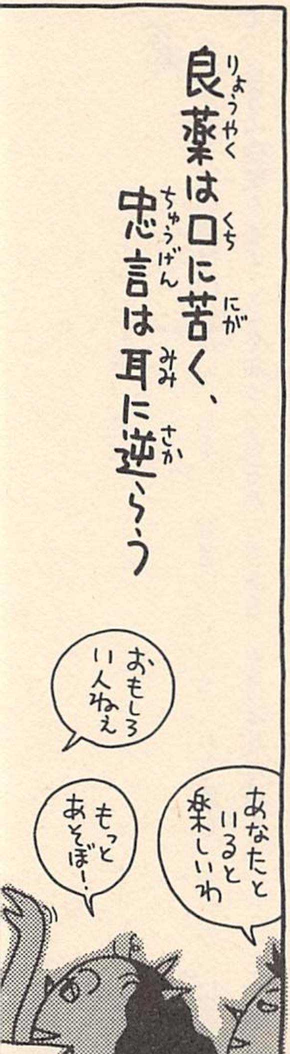
【訳】

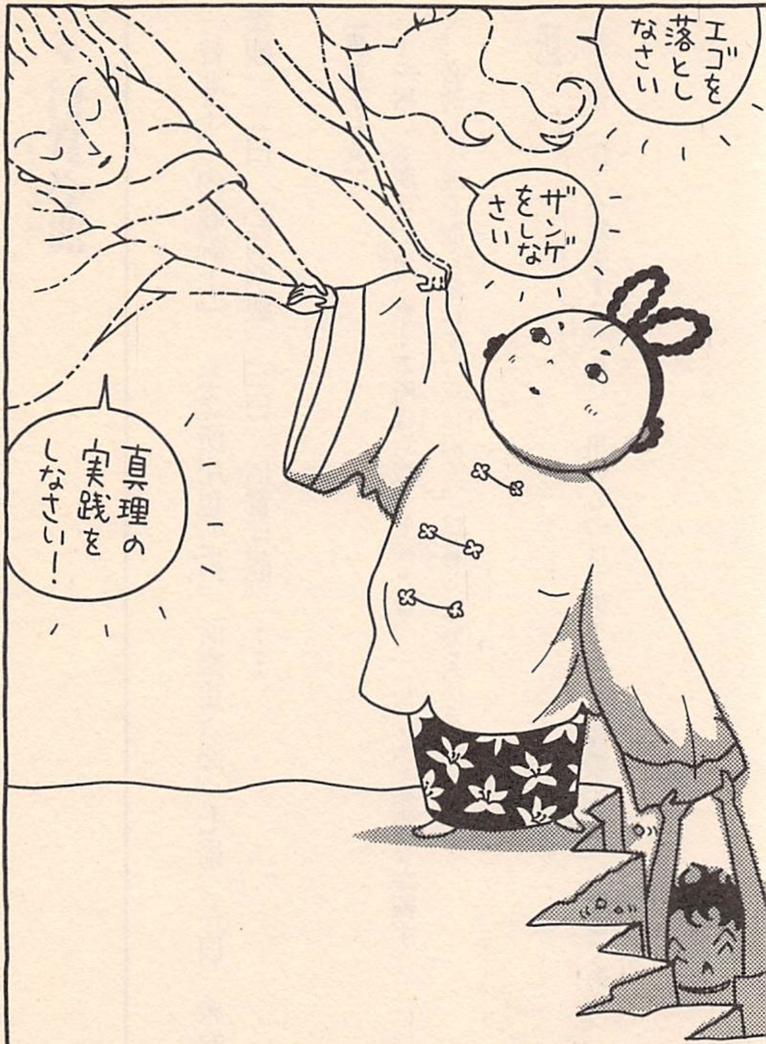
そもそも、良い薬は口に苦い。しかし、智者はつとめてこれを飲む。それが体に入って、自分の病気を癒すことを知っているからである。忠言は耳に逆らう。しかし、明君はこれを聴き入れる。それが効果を上げることを知っているからである。



これは皆さんよく知っているでしょう。「良薬は口に苦く、忠言は耳に逆らう」。病によく効く薬は口に苦く、そして、わたしたちを正しい方向へといさめる諫言は耳に逆らう、つまり聞いて心地の良いものではないというたとえです。

　ところでわたしたちは、今存在してるわたしたちを肯定してもらいたい、認めてもらいたいという心の働きがあります。しかし、もしこのわたしたちを周りが認めるとするならば、果たしてわたしたちには成長が存在するでしょうか。当然、わたしたちは成長することはできません。それだけではなく、わたしたちは、徐々に悪い種子を増大させ、そして今生不幸になり、来世も悪趣への道を歩くこととなるのです。したがって、今日の「良薬は口に苦く、忠言は耳に逆らう」、これを肝に銘じて実践したいものです。




エゴを落としなさい
ザンゲをしなさい
真理の実践をしなさい！

❖信賞必罰（しんしょうひつばつ）

［韓非子、内儲説上］　主之所用也七術。所察也六微。七術、一曰、衆端参観。二曰、必罰明威。三曰、信賞尽能。……

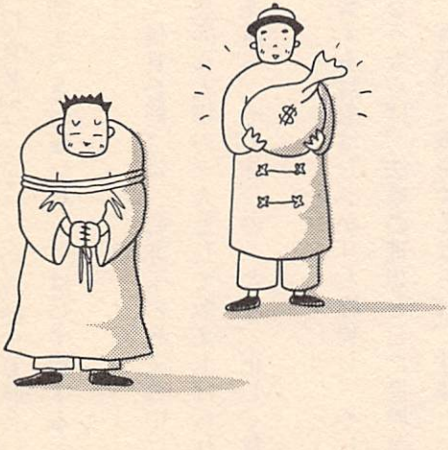
【書き下し文】

主の用いる所は七術（しちじゅつ）。察する所は六微（ろくび）。七術とは、一に曰（いわ）く、衆端を参観す。二に曰く、必罰して威を明らかにす。三に曰く、信賞して能を尽さしむ。……

【訳】

君主が（臣下を統御するために）用いるのは七術であり、観察するのは六微である。

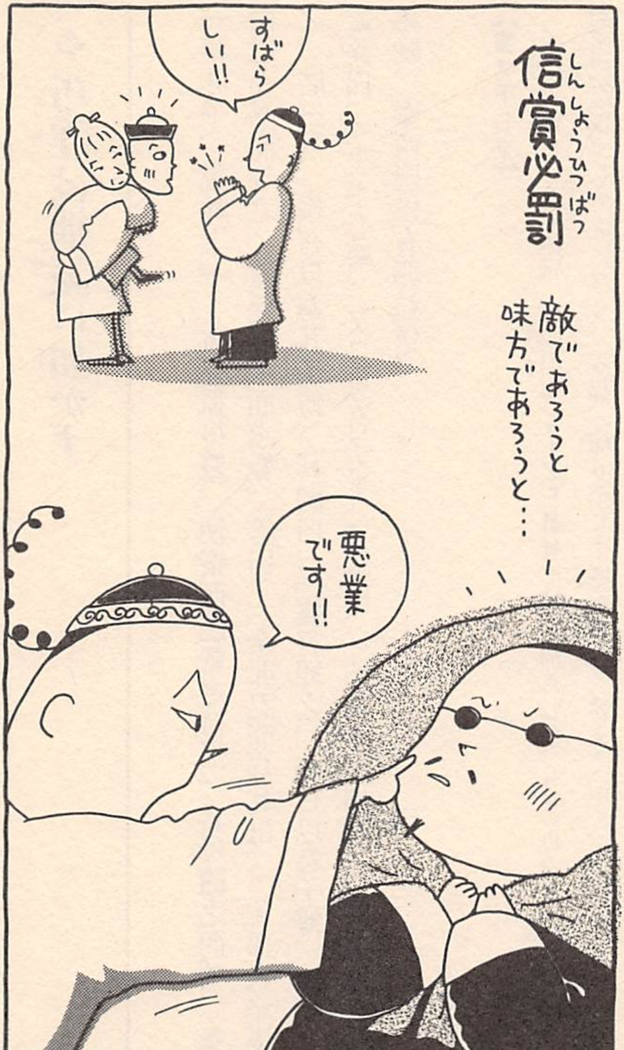
七術とは、第一に、衆人の言動を観察すること。第二に、罪を犯した者は必ず罰して、君主の威光を明らかにすること。第三に、功績を立てた者は必ず賞して、ますますその能力を発揮させること。……



今回も、皆さんがよく知っている故事成語で、「信賞必罰（しんしょうひつばつ）」です。この成語の意味合いは、称賛されるべき対象に対しては必ず称賛し、罰すべき対象に対しては必ず罰するという意味です。

ところで、皆さんもよく知ってのとおり、この「信賞必罰」は、韓非子（かんぴし）の教えの中に存在します。この韓非子は、商鞅（しょうおう）と共に法家の代表的な人物の一人として数え上げられる人です。そして、法律の遵守（じゅんしゅ）、これは平等な心を持ち、その法にのっとり、正しく裁くということが大切な要件となります。

したがって、敵であろうと味方であろうと、称賛する対象はしっかりと称賛し、そして罰する対象はしっかりと罰する、もしこれを行なうならば、法家の理想とした世界が形成されるでしょう。しかし、この法家の思想は、客観的に検証するならば、法律という形のない君主に対してすべての民が僕（しもべ）のごとく従うということです。なんとなく味気ない気がしますね。


信賞必罰
しんしょうひつばつ
敵であろうと
味方であろうと…
すばらしい!!
悪業です!!

❖巧詐(こうさ)は拙誠(せっせい)に如(し)かず

「韓非子、説林上」　孟孫猟得麑、使秦西巴載之持帰。其母随之而啼、秦西巴弗忍而与之。孟孫帰至而求麑。答曰、「余弗忍而与其母。」孟孫大怒逐之。居三月、復召以為其子傅。其御曰、「曩将罪之、今召以為子傅、何也。」孟孫曰、「夫不忍麑、又且忍吾子乎。」故曰、「巧詐不如拙誠。」楽羊以有功見疑、秦西巴以有罪益信。

【書き下し文】
孟孫(もうそん)、猟(かり)して麑(げい)を得、秦西巴(しんせいは)をして之を載せて持ち帰らしむ。其の母之に随(したが)いて啼(な)き、秦西巴忍びずして之に与う。孟孫、帰り至りて麑(げい)を求む。答えて曰く、「余忍びずして其

の母に与う」と。孟孫、大いに怒りて之を逐う。居ること三月、復た召して以て其の子の傅と為す。其の御曰く、「曩には将に之を罪せんとし、今は召して以て子の傅と為すは、何ぞや」と。孟孫曰く、「夫れ麑に忍びず、又且た吾が子に忍びんや」と。故に曰く、「巧詐は拙誠に如かず」と。楽羊は功有るを以て疑われ、秦西巴は罪有るを以て益信ぜらる。

【訳】

孟孫は狩をして子鹿を捕らえ、秦西巴に命じて、車にのせて持ち帰ろうとした。ところが、その母鹿がついてきて啼くので、秦西巴は哀れに思い子鹿を返してしまった。孟孫は帰ってから子鹿を求めた。

「わたしは哀れに思いまして、その母に返しました。」

といって答えると、孟孫は大変怒って、彼を追放した。

ところが三カ月経つと、再び召し出して、わが子のお守り役とした。そこで、その御者がいうには、

「先日は今にも罰しようとしていたのに、今は召し出してお子さまのお守り役になさるとは、どうしてでございますか」と。

孟孫がいうには、

「そもそも子鹿でさえ哀れに思うのだから、どうしてわたしの子供を粗末にすることがあろうか」と。

したがって、「巧みにいつわることは、つたなくても誠意のあることには及ばない」というのである。つまり、楽羊は功績があっても疑われ、秦西巴は罪があっても、ますます信用されたのである。

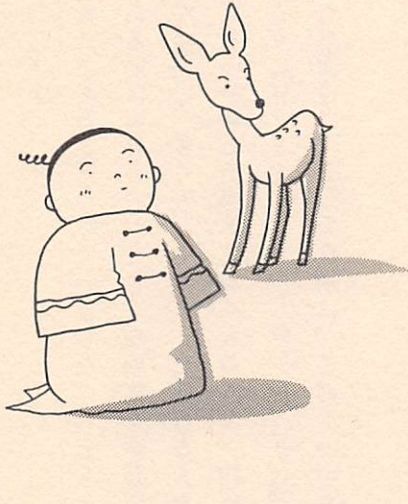
【注】

・孟孫——春秋時代の魯の大夫。

・秦西巴——魯の孟孫の臣下。

・楽羊——魏の将軍。魏の文侯のためにわが子の肉を食ったが、かえって文侯の信用を

失った。



巧詐(こうさ)は拙誠(せっせい)に如(し)かず



韓非子(かんぴし)の人格を表わす成語、「巧詐(こうさ)は拙誠(せっせい)に如かず」について、皆さんと一緒に検討しましょう。巧詐とは、巧みに相手をだますこと、そして拙誠とは、あまりうまくない、ぎこちない、しかし心のこもった態度を表わします。

わたしは、まだ二十代のころ、よく大変素朴であると言われていました。もともとわたしは、九州の田舎出身ですから、朴訥(ぼくとつ)、あるいは素朴といったような要素を兼ね備えていたのでしょう。しかし、その拙誠なるがゆえに、多くの、そして、真面目な人たちが集まりました。これはまさに、拙誠の効果といわざるを得ません。もちろん、初めのうちは巧みに相手をだます人の方が優勢のように見えますが、しかし長い目で見た場合、拙誠が必ず勝つのです。ですから、皆さんも真面目に、そして真剣に、この世の中を生きてほしいものです。

故事成語がズバリわかる!
もりもり智慧のわく書1

一九九二年九月三十日　初版発行

定　価　五五〇円

著　者　麻原彰晃

発行者　松本知子
　　　　石井久子

編　集　オウム出版広報編集部

発行所　株式会社オウム
東京都世田谷区世田谷二ー八ー十七
郵便番号　一五四
電　話　〇三（三四三九）六〇四三
振　替　東京二ー一〇九三二五

ISBN4-87142-055-8 C7098 P550E

この本をお読みになって、どのような感想をお持ちになりましたか。あなたのご意見を、ぜひ下記の「『もりもり智慧のわく書１』読者係」までお送りください。

〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
オウム出版「『もりもり智慧のわく書１』読者係」

◆各道場のご案内◆

富士山総本部 0544(54)1267
〒418-01 静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部 03(3327)8565
〒156 東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部 03(3396)9393
〒167 東京都杉並区下井草4-4-4 井口ビル2F
大阪支部 06(397)1022
〒532 大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部 092(474)2877
〒812 福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部 052(252)0709
〒460 愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部 011(241)4938
〒060 北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
京都支部 075(371)3759
〒600 京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
仙台支部 022(268)3904
〒982 宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部 0762(51)8457
〒920 石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部 0888(84)8286
〒780 高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部 082(264)6250
〒732 広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
横浜支部 045(243)8079
〒231 神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢佐木長者町ビル204
和歌山支部 0734(24)2859
〒640 和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部 0292(26)8044
〒310 茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
船橋支部 0474(66)4965
〒274 千葉県船橋市新高根6-26-18
那覇支部 098(869)7707
〒902 沖縄県那覇市安里2-4-12 嘉数グラビアハイツ5F
堺支部 0722(21)1843
〒590 大阪府堺市海山町4-168-9
高崎支部 0273(46)1573
〒370-12 群馬県高崎市倉賀野町 下稲荷前1081-5
福井支部 0776 (26) 6145
〒910 福井県福井市御幸3-3-41 東伸ビル2F
深谷出張所 0485(74)6205
〒366 埼玉県深谷市萱場441-8
渋谷出張所 03(3476)5065
〒150 東京都渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂317号

〈海外支部〉
ニューヨーク支部 212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部 (0228)616647
Auf dem Hügel 48, Endenich, 5300 Bonn 1, S.R.Germany
スリランカ支部
(AUM SACCA SAṄGHA ASSOCIATION)
Sorahena, Watta, Anglugaha, Galle, Sri Lanka

ついに登場！
原始仏教の基本がわかる本

図解

麻原尊師の真理入門セミナー

STEP TO 真理

Shinri

宇宙の法則編

AUM PRES編　A5判　定価1150円（税込）



宇宙の創造、カルマの法則、輪廻転生など、だれもが知りたかったちょっと不思議で神秘的な“真理の教え”をオウム真理教の麻原彰晃尊師がやさしくレクチャー。初心者でも理解できるようにイラスト・図表をふんだんに使って構成した、ファン待望のオウム真理教入門書――。

●全国の有名書店でお求めください　弊社に直接お申し込みの場合は下記まで　定価には消費税が含まれています

オウム出版　本社　〒154　東京都世田谷区世田谷2−8−17　TEL　03（3439）6043　振替　東京2−109325
営業部　〒168　東京都杉並区宮前3−8−11　TEL　03（5370）1598

今明かされる
驚異の能力覚醒プログラム
これであなたも超人類！

オウム真理教東大生グループ著

能力覚醒の秘法を解く

「こんな**成績**で**東大志望**なの？」と
教師、友人から**嘲笑**された彼が
たった一年で**現役合格**を果たせたその**秘密**は？
自らの**体験**をもとにオウム真理教・**東大生**グループが
超古代からの**叡智**、原始仏教・ヨーガの**秘儀**を結集し、
「能力覚醒の秘法」に挑む！

新書判　680円

◇ご注文は書店にお願いいたします。
直接弊社にお申し込みの場合は、下記までご連絡ください。





オウム出版
（本　社）〒154　東京都世田谷区世田谷2−8−17
☎　03（3439）6043／郵便振替　東京2−109325
（営業部）〒168　東京都杉並区宮前3−8−11／☎　03（5370）1598



すべてが思いのままになる!

超能力
秘密の開発法

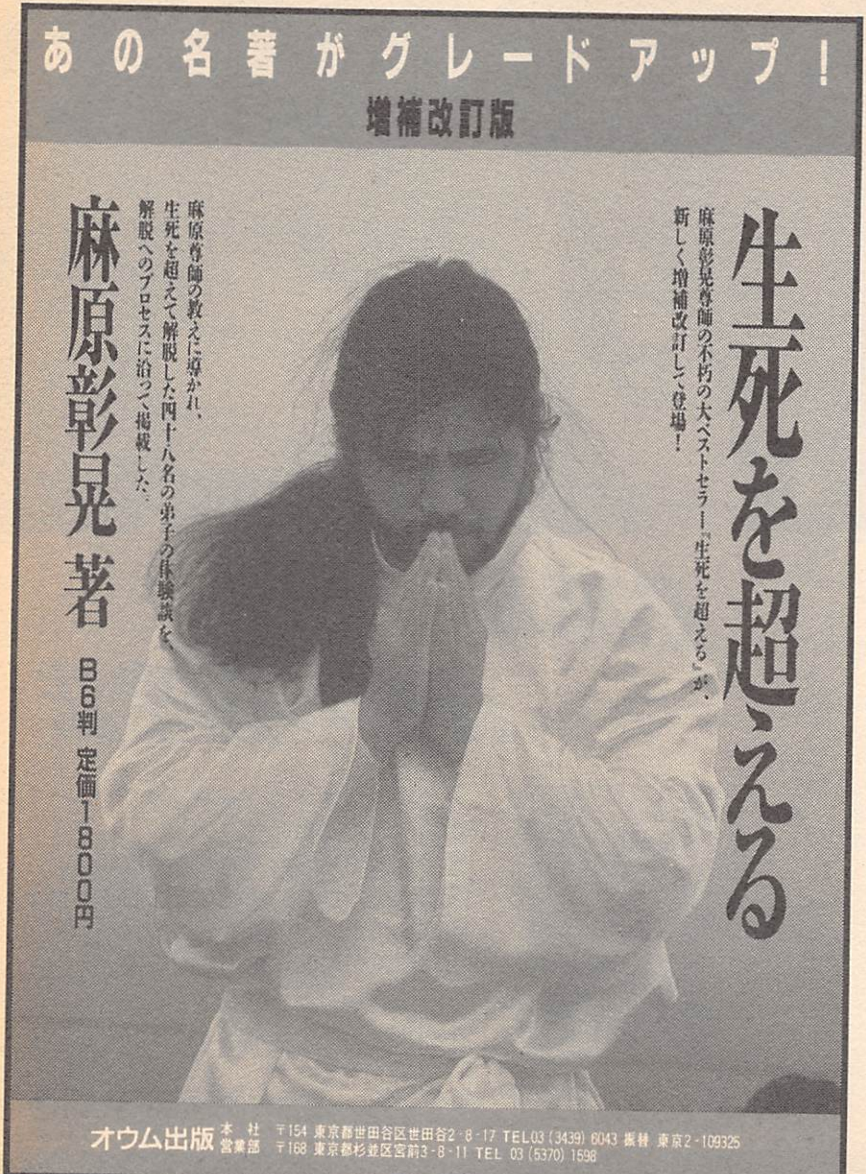


人が修行によって"人間"を
超えようとするとき、
必ず人知を超えた"力"が身につく。
超能力のつかない修行などニセモノだ!
日本でただ一人の最終解脱者、
麻原彰晃が贈る究極の秘儀伝授。

B6判 / 320ページ
定価 980円 (本体 951円)

お近くの書店にてお求めください。なお、直接弊社にお申し込みの場合は下記までお問い合わせください。

オウム出版
本社 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL. 03(3439)6043 振替 2-109325
営業部 〒168 東京都杉並区宮前3-8-11 TEL. 03(5370)1598


あの名著がグレードアップ！
増補改訂版
生死を超える
麻原彰晃尊師の不朽の大ベストセラー『生死を超える』が、
新しく増補改訂して、登場！
麻原尊師の教えに導かれ、
生死を超えて解脱した四十八名の弟子の体験談を、
解脱へのプロセスに沿って掲載した。
麻原彰晃 著
B6判 定価1800円
オウム出版
本社 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL03(3439)6043 振替 東京2-109325
営業部 〒168 東京都杉並区宮前3-8-11 TEL 03(5370)1598

仏陀の智慧が光を放ち混迷の時代を照射する

INITIATION

イニシエーション

麻原彰晃著

この名著はすべてを語っていた！

「解脱」「悟り」のプロセスを細やかに説き明かし、最高の修行法を伝授する。

本来、選ばれた弟子にのみ明かされる秘儀——ヨーガ・仏教の奥儀を極めた修行の正しさは、誕生した三五〇名の解脱者が証明する。

さらに、自民党の大勝と大敗、円高の進行、農作物輸入自由化など、今日の世界と日本の動向を正確に予言している、驚くべき記述の数々！

武田 健さん（東京都／学生）
「末法の時代は終わった」ということを確実に感じさせる本である。

松岡謙次さん（愛媛県／警備員）
読めば読むほど、「頑張ろう、やるぞ」と思わせるような素晴らしい本です。

山本 勇さん（石川県／会社員）
解脱するまでの心の状態が、多くの例を挙げてわかりやすく書いてある。

大森恵子さん（山口県／店員）
他の書では得られない絶対なる真理に触れることができた。

武田葉子さん（熊本県／主婦）
「人間として最高の、最終の目的は何か」ということがはっきり示されています。

本間智加子さん（東京都／経理事務）
宗教に対する偏見がいっぺんに吹き飛んでしまいました。



◎「解脱」「悟り」の真実／現代の仏陀麻原彰晃が最高の修行法を公開。

◎タントラ・イニシエーションの全貌／チベット密教・ゲールク派とオウムの秘儀を比較する。

◎確実に核戦争だ！／日本と世界の近未来を予言する。

◎総勢三十一名の体験談／「クンダリニーが覚醒する」「過去世が甦る」「悟りのプロセス」など、これが修行プロセスと霊的ステージの真実だ。

定価2163円　ご注文は書店にてお願いいたします。直接幣社にお申し込みの場合は下記まで。（送料300円）
オウム出版　〒154　東京都世田谷区世田谷2-8-17　電話03(3439)6043　郵便振替　東京2-109325

PART-10
仏教真理　五蘊無我

わたしたち本来のものではない五蘊（形状・容姿、感覚、表象、経験の構成、識別）を我と錯覚し、迷妄に苦しむ人間。この五蘊を証智し超越することによって、わたしたちは人間を超え、神に至れるのである。

B6判　定価650円

PART-11
自己を超えて神となれ！

――大人気を呼んだ尊師大学講演会特集――。東大、京大をはじめ、九一年の大学祭で尊師が若者に、現代における宗教の存在意義等について語られた模様を一挙掲載。

B6判　定価820円

PART-12
仏教真理　十二縁起

サキャ神賢が初転法輪でお説きになった「十二縁起の法」。魂の落下と上昇のプロセスを克明に描き、人間がこの世に生を受け、絶対的な自由の世界へ至る道程を明らかにする。

B6判　定価620円

PART-13
これが尊師！

雑誌・テレビ・ラジオにと、今大人気の麻原尊師。尊師の人気の秘密は何か？　雑誌社からの取材を中心に、様々な角度から尊師の魅力を探る。

B6判　定価570円

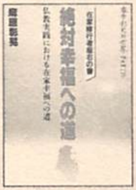
PART-14
宗教の条件



B6判　定価570円

今、本物が明らかになる！　真の宗教の条件とは？　第三次宗教ブームと呼ばれる現在、様々な宗教の中から間違いなく本物を選び出すための条件を、あますところなく説き示す一冊。

PART-15
絶対幸福への道



B6判　定価620円

最終解脱者、麻原彰晃尊師が、幸福になるための最速・最短の道をあなたに伝授する！　あなたを確実に幸福へと導く秘法が満載の、在家修行者座右の書。

PART-16
麻原彰晃　方便品



B6判　定価720円

難解な仏典の比喩・奥儀が現代的に説き明かされた！　釈迦牟尼の深遠な教えの真髄を、最終解脱者麻原尊師が巧みな方便でわかりやすく解説。読んで、考え、実践するための、本物のお経を公開！

PART-17
世界は尊師を待っている



B6判　定価1030円

転換期にあるロシアでの説法、大学での講演、インタビュー等を集めた第一部。テーラヴァーダ仏教のスリランカでの高僧との対談を集めた第二部。四十八ページカラーで尊師の幅広い活動を紹介。

（価格にはすべて消費税が含まれています。）

●全国の有名書店にてお求めください。弊社に直接お申し込みの場合は下記まで。

オウム出版
本社　〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL03(3439)6043 振替 東京2-109325
営業部　〒168 東京都杉並区宮前3-8-11 TEL03(5370)1598

麻原彰晃の世界シリーズ

人はなぜ麻原彰晃を尊師と仰ぎ、彼のもとに集まるのか？
その答えがこの本に集約されている。
麻原尊師の多彩な魅力を満載したファン待望のシリーズ。

絶賛発売中!!

PART-1
幸福に至る四つの実践

PART-2
尊師、麻原彰晃が斬る！

PART-3
真実！ 六道輪廻

PART-4
宗教にだまされるな！

PART-5
絶対の真理

PART-6
願望成就の秘法

PART-7
仏教真理・八正道

最終解脱者のみが語り得る八正道の真の意味合い。高い解脱・悟りへ至る道を、具体的に、現代でもすぐに実践できる方法として説き明かす。

Ｂ６判　定価８００円

PART-8
仏教真理　六波羅蜜

大乗仏教における在家信徒の最も重要な修行法の一つ、六波羅蜜。この修行プロセスを着実に実践しさえすれば、在家でも必ず解脱へと至れる！高弟たちの体験談の特別付録付き。

Ｂ６判　定価８００円

PART-9
尊師、聖地インドを行く

尊師がインドを行く。第一部では、信徒と共に行かれた巡礼の旅の全記録を、そして第二部ではなんと、今まで部外秘だった直弟子用奥儀説法を満載！

Ｂ６判　定価７５０円

好評！あなたとオウムをつなぐ
パソコン通信、

オウムについてもっと詳しく知りたい……
教義その他について、いろいろと聞きたいことがある……
オウムの人たちの生の声を聞いてみたい……
そんなあなたに最適な情報ネットワーク

“オウム真理教ネット”のご紹介

TEL番号	03-5370-1726（三回線） Tri-P利用可能（CXAUMNET）
通信速度	1200/2400bps
通信条件	BITS-8 PARITY-NONE STOP-1
プロトコル	X-MODEM Y-MODEM(-G)
ゲストID	GUEST
運用時間	24時間
入会方法	ゲストログイン後、 SYSOPあてメールにて申請

面倒くさい手続きはいっさいありません。オウムに興味をお持ちの方、聞いてみたいことがある方は、今すぐお気軽にご利用ください。

“オウム真理教ネット”



※ただ今、新入会員の方に素敵なプレゼント(えんじょい・はぴねす最新号)をさしあげています。

●なお、その他詳細は下記までお問い合わせください。
〒168 東京都杉並区宮前3-8-11
“オウム真理教ネット” 事務局 TEL 03-5370-1721

モスクワからあなたに──

オウム真理教放送「エウアンゲ



麻原彰晃尊師の声が
あなたの耳を直撃！

麻原尊師が電波にのってあなたのもとへ。
宗教、音楽、科学、神秘……。
盛りだくさんの内容と、
次から次への新しい発見で
眠気も吹っ飛ぶこの時間！
さあ、あなたも今日から尊師を聴こう！

ズバリ！ 真理のメッセージ
リオン・テス・バシレイアス」

中波	720kHz	毎日 23:00～1:00
短波	17.710MHz	毎日 22:00～23:00
英語放送	朝の部	毎日 5:30～6:00
	昼の部	毎日 1:30～2:00

※今週の聴きどころなどを毎日紹介。
便利なテレホンサービスもぜひご利用を。
TEL 03（5370）1608

※タイアップマガジン



定期購読受付中！

「えんじょい・はぴねす」

※詳しいお問い合わせは、
「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」係まで。
TEL 03（3335）4965

●オウム真理教が誇る三つの基本的修行体系

1、マハーヤーナ

現実生活をより豊かにし、幸福な人生をお約束します。ご年輩の方、仕事が忙しく時間のあまり取れない方にお勧めです。

2、タントラ・ヴァジラヤーナ

行法、イニシエーションを中心として進め、霊性を向上させて、神秘世界を実体験することができます。この修行体系を選択すれば今生で解脱し、悟ることも夢ではありません。

3、テーラヴァーダ

原始仏教の上座部仏教を再現しました。真理にのっとって清浄な日常生活を送ることによって、幸せな来世が約束されます。また、経典の記憶修習によって心の成熟が促され、悟りを得ることが可能です。オウム真理教の深遠な教義を徹底的に学びたい方に最適です。

※資料請求券を貼付けしたハガキ、または電話にて最寄りの本・支部までご連絡ください。入信案内等、詳しい資料をお送りします。

キリトリ線

もりもり
智慧のわく書1
資料請求券



あなたに絶対の幸福を約束する

——オウム真理教

心身の悩みを解決したい
超健康体を得たい
豊かな生活を送りたい
素晴らしい人間関係を築きたい
スーパー・パワーを身につけたい
来世も幸福に生きたい
解脱し、永遠の至福を得たい

最高の教義、最高の奥儀、そして麻原尊師のもと、すべては確実に実現します。



生きているときが最も大切であると。とするならば、最高に大切なものは、自分自身の命ということになるでしょう。

しかしこれに反し、仏典では、サキャ神賢をはじめとする多くのボーディサットヴァが自分の肉体を布施したり、あるいは、自分の実際の身体の肉や血等を布施したりするという一幕が展開します。これは、根本的に死後の世界を経験しているかしていないかという、大きな経験哲学の背景によって、人生の生き方が違うことを表わしているのではないでしょうか。

もちろん、わたしも、あなたがもし必要とするなら、このわたしの命を布施したいと思います。

「越人も羿を疑わず、慈母も弱子を逃る」です。これはどういう意味でしょうか。

この羿とは、もともと弓矢の名人で、天界にいたころ、太陽が天に十個現われました。それによって地上の人民が大変苦しみました。羿はその九個までの太陽を九発必中で射落としたのです。したがって、どれほど離れていたとしても、――例えば、羿とそれから越の国が大変離れていたとしても、その越の国の人が的を持っても安心してその的を持つことができ、また、いかに子供に執着している母親でも、子供が射ようとする弓矢の的を持つことを嫌がるというたとえです。

これは、確実なものに対しては、人間関係においてそれほど確立していなくても人々は安心してその選択を取り、不確実なことは、たとえ自分が愛着していたとしてもその対象から逃れたいという意味です。

この韓非子の言葉は、一つの真理を表わしていると思われます。なぜならば、越の国の人にしろ、あるいは、子供に執着している母親にしろ、本質的にかわいいのは自分自身なのです。そして特に、中国は「死んだら灰になる」という思想を持っていますから、

【訳】

恵子がいうには、

「羿が弓懸をはめ、弓籠手を着け、弓を取り、弓をいっぱいに引くならば、越の人でも争って羿のために的を持って立っているだろう。幼い子供が弓を引くならば、優しい母でも部屋に逃げ込み、戸を閉じるだろう」と。

したがって、「必ず的に当たるとわかれば、越の人も羿を疑わず、どこに当たるかわからなければ、優しい母も幼い子供から逃げる」というのである。

【注】

・恵子——戦国時代の宋の政治家・思想家。名家の一人。

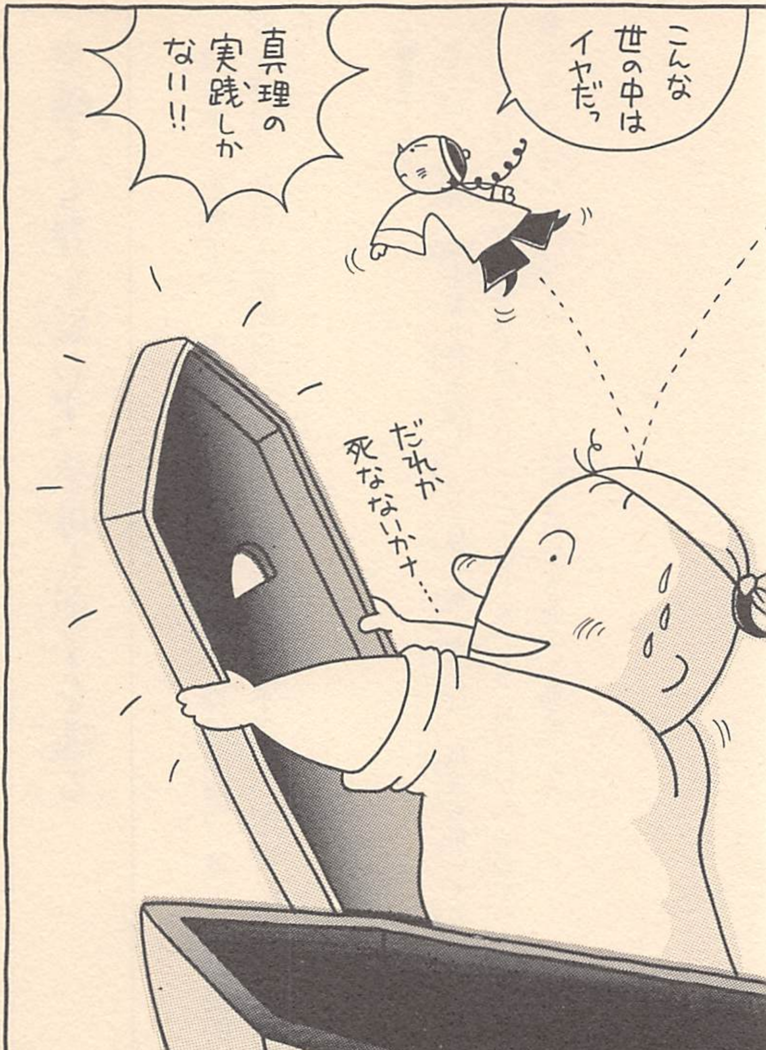
・羿——伝説上の弓の名人の名。堯の世に太陽が十個出て人民が苦しんだとき、その中の九個を射落としたという。

❖越人も羿を疑わず、慈母も弱子を逃る

「韓非子、説林下」 恵子曰、「羿執鞅持扞、操弓関機、越人争為持的。弱子扞弓、慈母入室閉戸。」故曰、「可必則越人不疑羿、不可必則慈母逃弱子。」

【書き下し文】

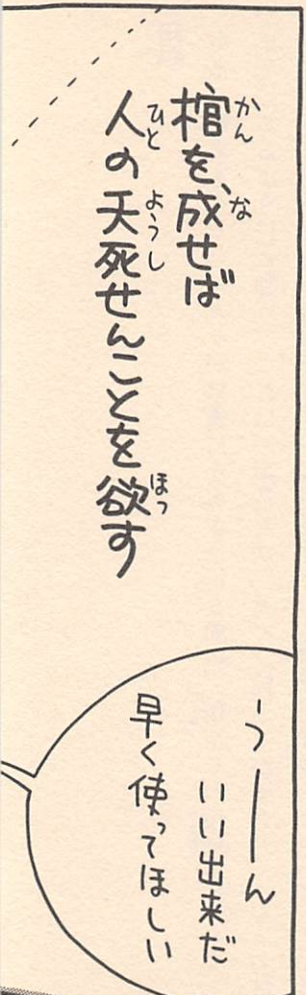
恵子曰く、「羿、鞅を執り扞を持し、弓を操り機を関かば、越人も争いて為に的を持たん。弱子弓を扞かば、慈母も室に入りて戸を閉じん」と。故に曰く、「必すべくんば則ち越人も羿を疑わず、必すべからずんば則ち慈母も弱子を逃る」と。


こんな世の中はイヤだっ
真理の実践しかない!!
だれか死なないかナ……

この故事成語は、個人のエゴについて。棺桶屋が棺桶を造ると、とにかく若かろうが年取っていようが、とにかくだれでもいいから死んでくれと思うこと、つまり、個人はもともとエゴの塊であり、自己本位であることを表わしたことわざです。

ところで、このようなことわざ、確かにこれは真実かもしれませんが、一人一人の人がそのような心を持っているとするならば、なんて殺伐とした世の中なんでしょう。

かく言うわたしは、そのような殺伐とした人生に嫌気がさし、そして修行に入ったものです。「このようなけがれた、殺伐とした世の中が嫌だな。そして真実の自分自身、人の真の幸せを願える自分自身を確立したいな」と思われる方は、ぜひ、わたしの法則の門を叩いてみてください。



【訳】

車造りが車を造ると、人々が富貴になるようにと願い、棺造りが棺桶を造ると、人々が早死にするようにと願う。これは、車造りが仁者で、棺造りが悪者だというわけではない。人が富貴でないと車は売れず、人が死なないと棺桶が買われないからである。（人の死を願うのは、）人を憎む心があるのではなく、人が死ぬことで利益があるからである。

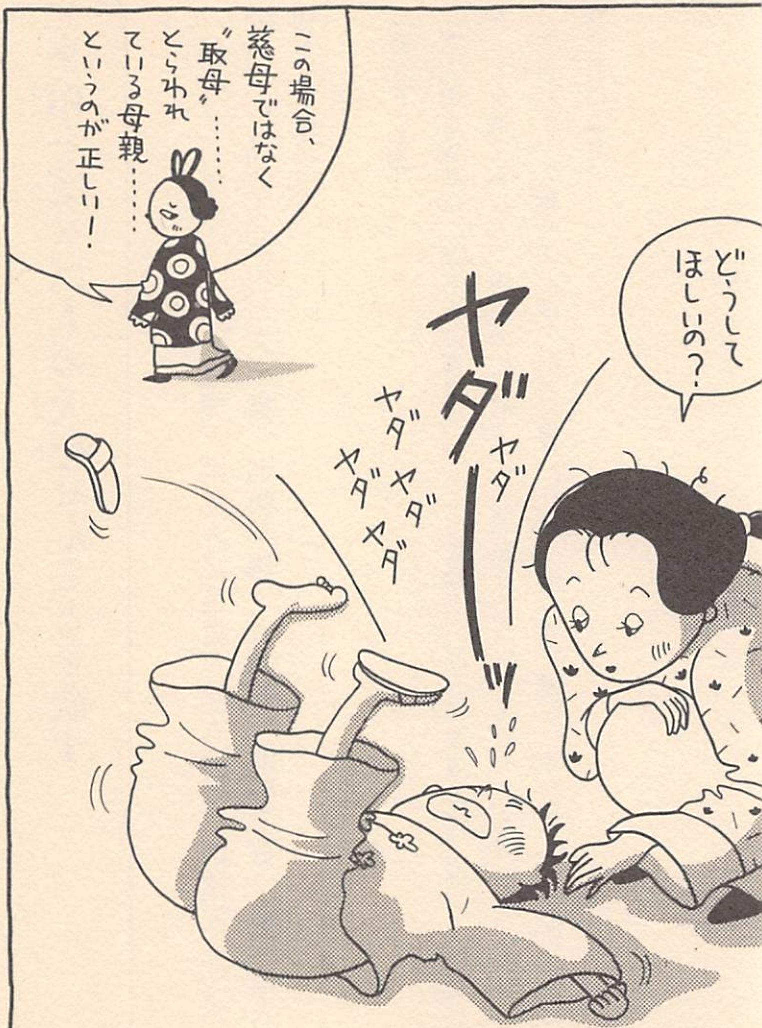


❖ 棺を成せば人の夭死せんことを欲す

［韓非子、備内］ 輿人成輿、則欲人之富貴、匠人成棺、則欲人之夭死也。非輿人仁而匠人賊也。人不貴、則輿不售、人不死、則棺不買。情非憎人也。利在人之死也。

【書き下し文】

輿人輿を成せば、則ち人の富貴ならんことを欲し、匠人棺を成せば、則ち人の夭死せんことを欲するなり。輿人の仁にして匠人の賊なるに非ざるなり。人貴からずんば、則ち輿售れず、人死せずんば、則ち棺買われず。情、人を憎むに非ざるなり。利、人の死に在ればなり。


どうしてほしいの？
ヤダーッ
ヤダ
ヤダ
ヤダ　ヤダ
ヤダ
ヤダ　ヤダ
ヤダ
この場合、慈母ではなく"取母"……とらわれている母親……というのが正しい！

「慈母に敗子有り」。「慈母」とは、慈しみのある母親、そして「敗子」というのは、敗ける子という意味です。この成語は、あまりにも親バカの母親の子供は、ダメな子供になるという意味です。これは現代でもよく当てはまる言葉です。

しかし、わたしはこの漢字の当て方に対して、少し異論があります。というのは、もともと慈愛の「慈」というのは、このようなときに使われる言葉ではないのです。ここでは〝取母〟、つまり、とらわれている母親というのが正しいと思われます。

もともと慈愛というものは、個に対して、つまり、一人に対して注がれる愛情ではなく、すべての魂の成長を願う心の働きだからです。子供であれ、夫であれ、あるいは父母であれ、対象を正確に認識し、その人たちのカルマを見抜き、正確な指導、および正確な対応を行なう人生こそ、最高の人生ではないでしょうか。



良の子供がいる。これから考えると、威勢は暴悪を禁じることができるが、恩徳は乱暴をとどめることができないのがわかるのである。



❖慈母に敗子有り

［韓非子、顕学］　夫厳家無悍虜、而慈母有敗子。吾以此知威勢之可以禁暴、而徳厚之不足以止乱也。

【書き下し文】
夫れ厳家には悍虜無くして、慈母には敗子有り。吾此を以て威勢の以て暴を禁ずべくして、徳厚の以て乱を止むるに足らざるを知るなり。

【訳】
そもそも厳格な家には、言うことを聞かない召使いはいないし、優しすぎる母には不


真理の実践で
寂静の境地へ！
波立たない
湖のように…
ヒック

闇を以て疵を見る



この「闇を以て疵を見る」とは、暗闇から明るい方を見ると、よく物の形状やあるいは様子がわかるように、真の君主たるものは、己を虚静にし（虚しく静かにし）、臣下の言葉、あるいは行動をしっかりとチェックしなさい、そして臣下の言葉、一度吐いた言葉を変えさせないようにして、その行動とつけ合わせ、それによって、その臣下の実力、および心の現われを測りなさいというのが、このことわざの意味合いです。

ところで、真理の最高峰、仏教の教えの中に「寂静」というものがあります。この寂静というものは、波立たない湖と同じように対象を正確に映し出すことのできる心の状態を表わします。そして、虚静の最高のものが寂静であり、この寂静は、対象を最も正確に映し出します。当然、対象を正確に映し出すわけですから、その判断に対して失敗があるはずがありません。皆さんが真理の実践をなさるならば、「闇を以て疵を見る」のたとえを知らなくとも、この最高の境地に到達することができ、最高の人生を送ることができるでしょう。

【訳】

（万物を支配する原理である）道は目に見えるものではなく、その作用も人に知られずに営まれている。

それと同じように、君主は常に虚静にして、何かをしているという形は少しもなく、（その本心や正体は臣下に知られないようにし、）あたかも暗い所から明るい所をうかがうようにして、臣下の欠点を見抜くのである。そして、見ても見ぬふりをし、聞いても聞かぬふりをし、知っても知らぬふりをする。臣下の意見を聞いてからは、その言葉の変更は認めず、意見と実績とを突き合わせて調べるのがよいのである。



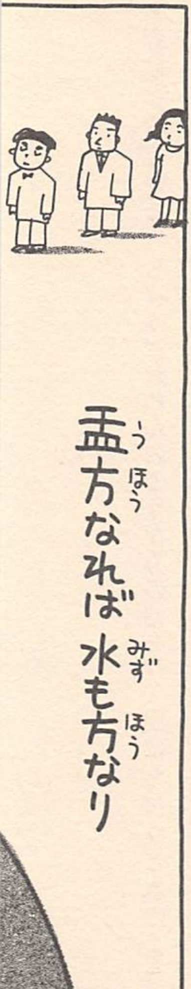
❖闇(あん)を以(もっ)て疵(きず)を見る

［韓非子、主道］　道在不可見、用在不可知。虚静無事、以闇見疵。見而不見、聞而不聞、知而不知。知其言以往、勿変勿更、以参合閲焉。

【書き下し文】

道は見るべからざるに在り、用は知るべからざるに在り。虚静(きょせい)にして事とする無く、闇(あん)を以て疵(きず)を見る。見て而(しか)も見ず、聞きて而も聞かず、知って而も知らず。其の言を知る以往(いおう)は、変ずる勿(な)く更(あらた)むる勿く、参合を以て焉(これ)を閲(けみ)せよ。


教祖の教えによって
その教団の人たちも
同じような形に
変えられる
真理の
教え



「盂方なれば、水も方なり」。この言葉は、例えば教祖と教団の関係、あるいは社長と組織の関係等に当てはめて考えるとよく理解できる成語ということができるでしょう。もちろん、この成立した時代は国が小さく分割されていましたから、当時は君主、つまりその国の王と、そして国民の関係を表わしているのです。

この「盂」とは、おわんのこと。そして、「方」とは、四角形のことです。これはどういうことかというと、四角形のおわんに水が入ったならば、水も当然四角形になる。あるいは、おわんが丸ければ、当然水も丸くなる。

これと同じように、例えば、その教祖の器によって——つまり、この教祖の器とは、教祖の教えの内容によって——その教団の人たちも同じような形に変えられるという意味です。もちろん、それはそのはずです。なぜならば、教えはわたしたちの心を変え、言葉を変え、そして行動を変えるのですから。

「君主という者は、ちょうどおわんのようなものであり、民はちょうど水のようなものである。おわんが四角ならば、水も四角になり、おわんが丸ければ、水も丸くなる」と。



❖ 盂方なれば水も方なり

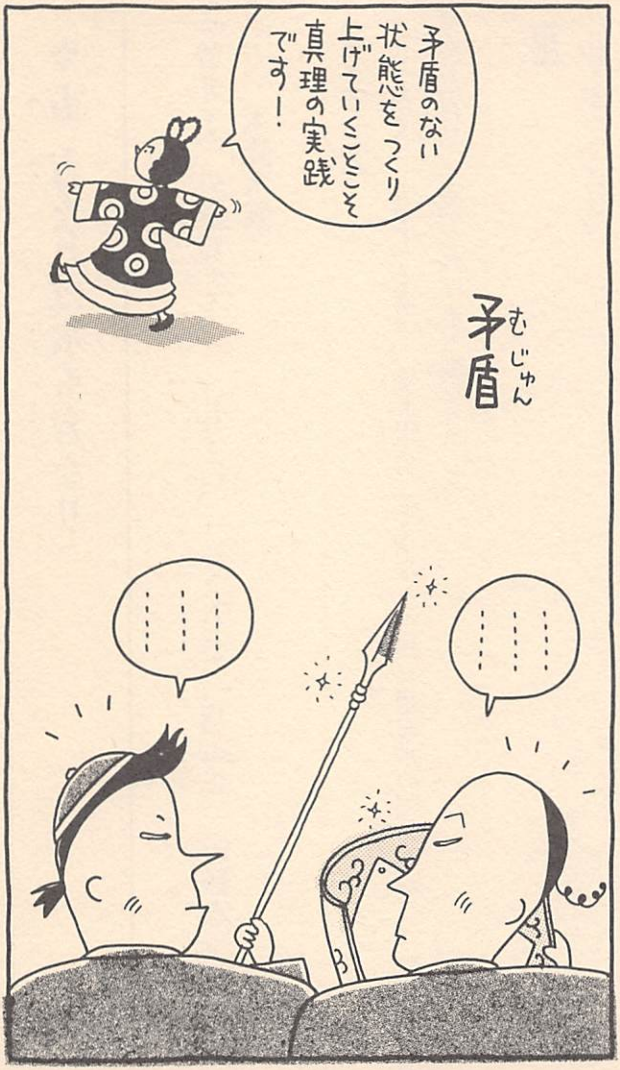
［韓非子、外儲説左上］　孔子曰、「為人君者、猶盂也。民猶水也。盂方水方、盂圜水圜。」

【書き下し文】

孔子曰く、「人君たる者は、猶お盂のごときなり。民は猶お水のごときなり。盂方なれば水も方に、盂圜なれば水も圜なり」と。

【訳】

孔子がいうには、


矛盾のない状態をつくり上げていくことこそ真理の実践です！
矛盾 むじゅん
……
……

皆さんのよく知っている故事成語、「矛盾（むじゅん）」が出てきました。

この「矛盾」の「矛」とは、矛（ほこ）であり、「盾」とは盾（たて）の意味です。これは、楚で盾と矛を売っていた人がいました。そして、

「この盾は、いかなるものも突き通さないぞ。矛は、いかなるものも突き通すぞ。」

と言って、この商売人は売っていたわけです。ある人がその商売人に聞きました。

「ではこの矛で、この盾を突いたらどうなるんだ？」

その商売人は、それについて、全く答えられなかったという話です。

ところで、わたしたちもこのような矛盾、つまり、自己の中で整頓されておらず、そして相反する考え方をたくさん有しています。その相反する考え方を一つ一つ整理し、そして、矛盾のない状態をつくり上げていく実践こそ、真理の実践なのです。ということは、完全な形で整理された教えであり、実践ですから、当然苦しみが止滅し、悲しみが止滅し、そしていっさいの心の悩みが止滅するわけです。

皆さんは、この矛と盾が好きですか？　それとも、真理の実践をなさいますか？

【訳】

楚の人に盾（たて）と矛（ほこ）とを売る者がいた。盾を誉めていうには、

「わたしの盾の堅いことといったら、突き通すことのできるものはありませんぞ」と。

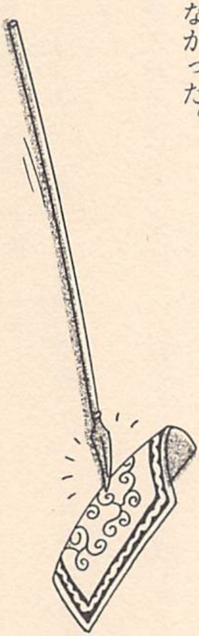
また、その矛を誉めていうには、

「わたしの矛の鋭いことといったら、どんな物でも突き通せないものはありませんぞ」と。

そこで、ある人がいうには、

「お前さんの矛で、お前さんの盾を突き通したら、どうなるのかね」と。

その人は答えることができなかった。



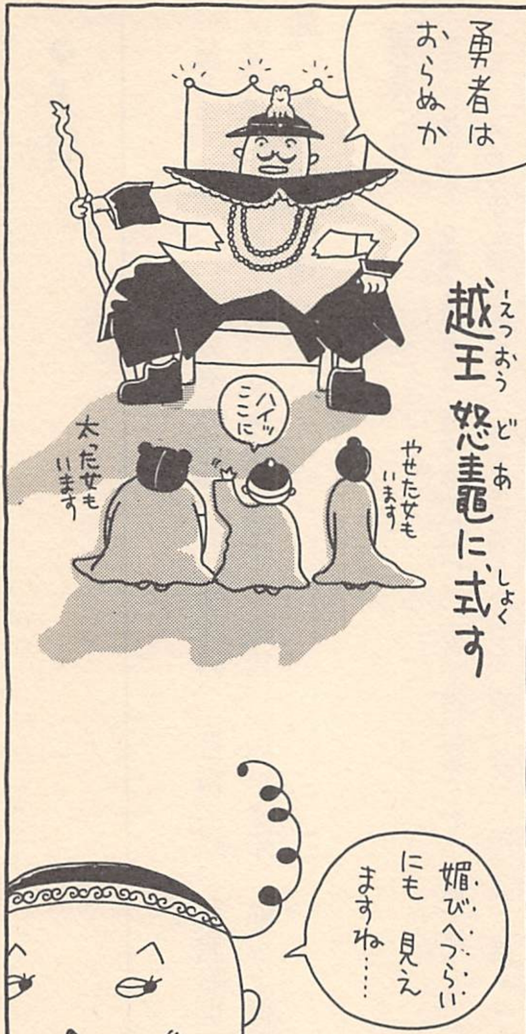
❖矛盾（むじゅん）

［韓非子、難一］　楚人有鬻楯与矛者。誉之曰、「吾楯之堅、莫能陥也。」又誉其矛曰、「吾矛之利、於物無不陥也。」或曰、「以子之矛、陥子之楯何如。」其人弗能応也。

【書き下し文】

楚人（そひと）に楯（たて）と矛（ほこ）とを鬻（ひさ）ぐ者有り。之を誉めて曰（いわ）く、「吾が楯の堅きこと、能（よ）く陥（とお）す莫（な）きなり」と。又其の矛を誉めて曰く、「吾が矛の利なること、物に於いて陥（とお）さざる無きなり」と。或ひと曰く、「子（し）の矛を以て、子の楯を陥（とお）さば何如（いかん）」と。其の人、応（こた）うること能（あた）わざるなり。

の心が正しい方向に向かってこそ、正しい国づくりができるのではないでしょうか。



今回は、王と、そして国民との関係について、故事成語を拾ってみたいと思います。
「越王怒鼃に式す」。

この「越王」とは、越の国の王様のことであり、「怒鼃」とは、怒ったカエル、「式す」とは、そのカエルに対して礼儀を尽くしたという意味です。これはどういう意味でしょうか。越王は勇猛な国民を好みました。そしてあるとき、馬車で通りかかった、その馬車に対して、カエルが怒って向かってきました。それに対して、越王は馬車の上から、礼をなしたそうです。これは、越王の馬車に対して勇猛に怒ってきたカエルに対してすら越王が礼を尽くすのだから、国民は勇猛な国民を越王が望んでいるんだということを知り、そして、それ以来、越王の国民は大変勇敢になったというたとえです。

ところで、中国では、皇帝の好みに応じて、例えばやせた女性が好まれるとき、国中の女性が食事を取らずやせましたし、また、太ってグラマーな女性を好んだとき、逆によくみんな食べ、そして肉体を太らせたそうです。しかし、これらはよく考えてみると、その背景に「媚びへつらい」といったような裏の心があるように思われます。一人一人

【訳】

越王は呉を討伐しようと思っていた。そのために、人民が死を軽んじて働いてくれることを望み、そこで外出したとき、怒ったカエルを見ると、車上からカエルに敬礼をした。従者がいうには、

「なぜこのようなものに敬意を払われるのですか」と。

そこで、王がいうには、

「あれには勇気があるからだ」と。

すると翌年からは、自分の首をはねて王に献上しようと申し出る者が、毎年十人を超えた。こうしたことから見ると、誉めるということでも、人を死なせることができるわけである。

【注】

・越王——春秋時代の越の王、勾践（こうせん）のこと。



❖越王(えつおう)怒鼃(どあ)に式(しょく)す

［韓非子、内儲説上］　越王慮伐呉。欲人之軽死也、出見怒鼃、乃為之式。従者曰、「奚敬於此。」王曰、「為其有気故也。」明年請以頭献王者、歳十余人。由是観之、誉之足以殺人矣。

【書き下し文】

越王(えつおう)、呉(ご)を伐(う)たんと慮(はか)る。人の死を軽(かろ)んずるを欲するや、出でて怒鼃(どあ)を見て、乃(すなわ)ち之が為(ため)に式(しょく)す。従者曰(いわ)く、「奚(なん)ぞ此に敬する」と。王曰く、「其の気有るが為の故(ゆえ)なり」と。明年(みょうねん)、頭(こうべ)を以て王に献ぜんと請う者、歳(とし)に十余人なり。是に由(よ)りて之を観(み)れば、之を誉(ほ)むるは以て人を殺すに足る。


長い目で見ると……



もりもり知恵のわく本1.

◉故事成語がズバリわかる！

ISBN4-87142-055-8 C7098 P550E 定価550円（本体534円）